

令和7年度
男女共同参画に関する
福井市民意識
アンケート調査報告書

福井市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査対象及び方法	1
3 調査期間.....	1
4 調査項目.....	1
5 回収結果・回収率	2
II 調査対象者の属性	3
問1 性別.....	3
問2 年齢.....	3
問3 一緒に暮らしている人	4
問4 職業.....	4
問5 結婚.....	5
問6 配偶者・パートナーの職業	5
III 調査結果	6
◆男女平等に関する認識について	6
問7～13 現在、次の7つの分野で男女平等になっていると思いますか。	6
◆家庭における役割分担について	8
問14～22 1日あたり平均で何分くらいの家事をしていますか。	8

問23 夫は外で働き、妻は家庭で家事・育児に専念するべきである。.. 9

問24～26 自分と配偶者・パートナーの家事等分担や働き方について、理想のバランスと実態に近いものをそれぞれ1つ選択してください。... 11

◆男女とも活躍できる職場環境・地域づくりの推進について... 13

問27 本人や配偶者・パートナーが出産された方にのみお聞きします。あなたは育児休業を取得しましたか。..... 13

問28 育児休業を取得しなかった理由を全て選択してください。..... 13

問29 管理職になることについて、どう思いますか。管理職経験のある方は、管理職になる前の気持ちを教えてください。..... 14

問30 「なりたくない」と答えたのは、どのような理由からですか。 15

問31 夫婦のうちどちらかが自治会長や自主防災組織等の役員をすることとなった場合、夫婦のどちらが担当しますか。..... 16

問32 「自分」を選択した理由を全て選択してください。..... 16

問33 「配偶者・パートナー」を選択した理由を全て選択してください。..... 17

◆女性に選ばれる地域づくりについて 19

問34 若い女性が都市圏に転出する理由は何だと思えますか。..... 19

問35 若い女性が福井に定着するために必要なことは何だと思えますか。..... 20

◆個性や能力を生かす学校教育の推進について 21

問36 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。..... 21

◆ポジティブ・アクションについて 23

問37 男女の真の平等を実現するために、具体的な取組としてあったらよいと思うものがあれば、次の中から選んでください。..... 23

◆配偶者等からの暴力防止に関する意識について	25
問38 あなたは、配偶者やパートナー等からの暴力（DV）について、相談窓口があることを知っていますか。	25
問39 あなたは、DVを受けたことがありますか。	25
問40 DV被害について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。	26
問41 DV被害について、どこ（誰）に打ち明けたり相談したりしましたか。	26
問42 どこ（誰）にも相談しなかったのは、なぜですか。	27
問43 あなたの周りで、DVを受けた（受けている）人がいますか。	27
◆「困難な問題を抱える女性」に関する取組について	28
問44 「困難な問題を抱える女性」を減らす、または支援するために、どのような取組が効果的だと思いますか。	28
◆男女共同参画推進のための取組について	30
問45 男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。	30
◆男女共同参画に関する意見について	31
問46 男女共同参画についてご意見などがあれば記入してください。	31

報告書の見方

- 1 グラフ中の(SA)は単一回答、(MA)は複数回答を示す。
- 2 グラフ中の(N)は、その設問における回答者数を表す。ただし、複数回答のうち、あてはまるものを3つまで選択する設問では(N)は回答数を表す(設問34、35、37、44、45)。
- 3 単一回答では、構成比の数値を少数第2位で四捨五入したため、合計が100.0%に過不足することがある。
- 4 複数回答の設問で割合を集計する際に、あてはまるものを全て選択する設問では回答者数を母数とし(設問 28、32、33)、3つまで選択する設問では回答数を母数とした(設問34、35、37、44、45)。前者では、回答割合の合計は100.0%を超える。
- 5 各問「その他」のコメント及び問 46 男女共同参画に関する意見は、原則として原文のまま掲載した。なお、設問の意図に沿わない又は関連のない記述は掲載していない。
- 6 回答者の結婚の有無等を便宜上「結婚している」を「既婚」、「結婚していないがパートナーと暮らしている」を「パートナーと同居」、「結婚していない」を「未婚」、「結婚していたが離婚又は死別した」を「離婚/死別」と表記している。
- 7 「前回調査」とは「令和 2 年度男女共同参画に関する福井市民意識アンケート調査」を指す。

I 調査の概要

1 調査の目的

福井市では、性別に関わりなく、誰もがその個性と能力を十分に発揮することのできる男女共同参画社会の実現を目指して、第6次男女共同参画基本計画に基づき、さまざまな事業に取り組んでいる。

今回、次期男女共同参画基本計画の策定にあたり、市民の意識と実態を把握し、今後の施策に反映させることを目的に、アンケートを実施した。

2 調査対象及び方法

- ・ 対 象 福井市在住の18～69歳の市民2,000人
- ・ 抽出方法 令和7年7月末時点の住民基本台帳から無作為抽出
- ・ 調査方法 WEB 回答

3 調査期間

令和7年8月9日～9月30日

4 調査項目

- ・ 男女平等に関する認識(7問)
- ・ 家庭における役割分担(13問)
- ・ 男女とも活躍できる職場環境・地域づくりの推進(7問)
- ・ 女性に選ばれる地域づくり(2問)
- ・ 個性や能力を生かす学校教育の推進(1問)
- ・ ポジティブ・アクション(1問)
- ・ 配偶者等からの暴力防止に関する意識(6問)
- ・ 「困難な問題を抱える女性」に関する取組(1問)
- ・ 男女共同参画推進のための取組(1問)
- ・ 男女共同参画に関する意見(自由記述のみ・1問)

5 回収結果・回収率

①全体 456票(22.8%)

発送数	回収数	回収率
2,000	456	22.8%

②性別

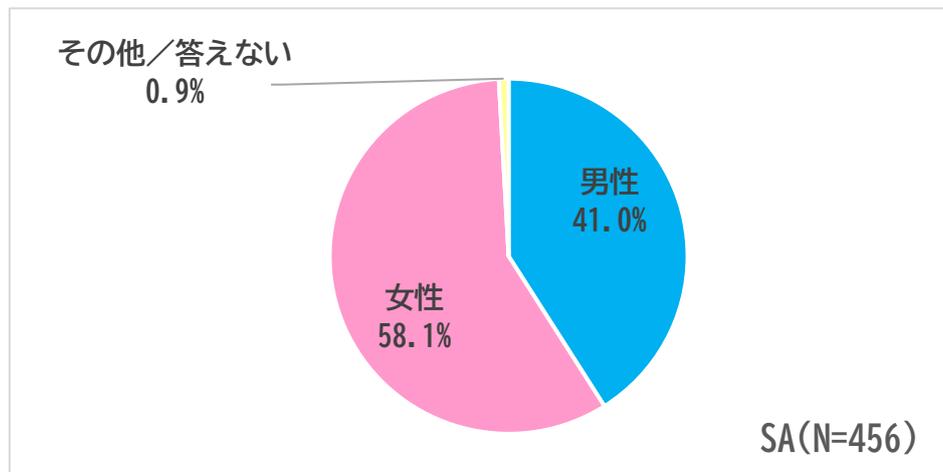
性別	発送数	回収数	割合	回収率
男性	998	187	41.0%	18.7%
女性	1002	265	58.1%	26.4%
その他／答えない	—	4	0.9%	—

③年代別

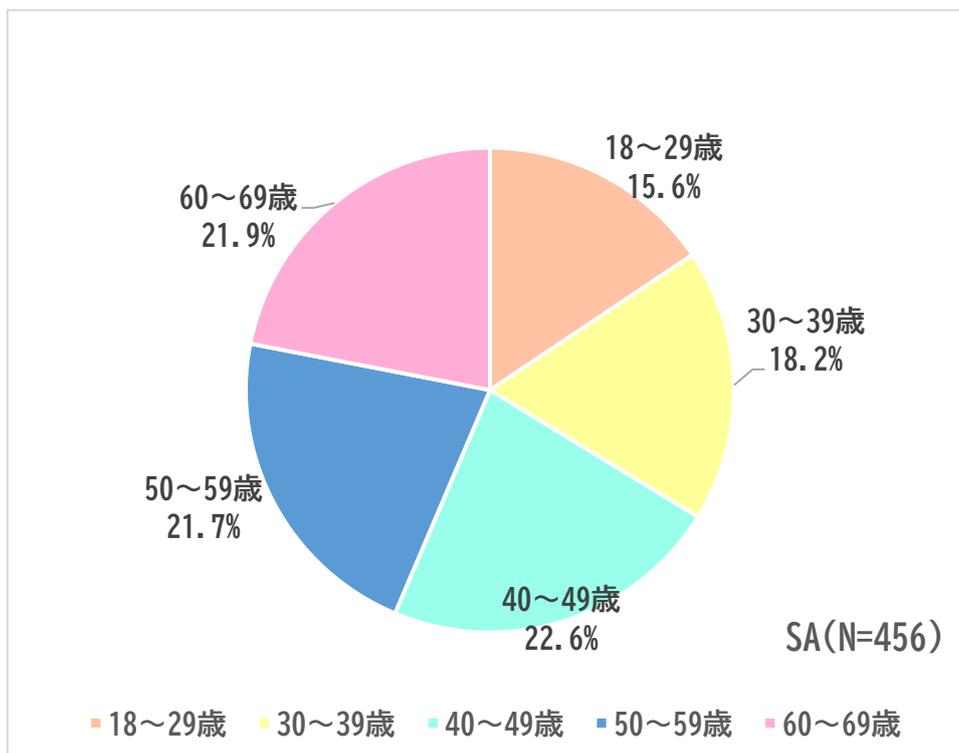
年代	発送数	回収数	割合	回収率
18～29 歳	462	71	15.6%	15.4%
30～39 歳	385	83	18.2%	21.6%
40～49 歳	385	103	22.6%	26.8%
50～59 歳	384	99	21.7%	25.8%
60～69 歳	384	100	21.9%	26.0%

II 調査対象者の属性

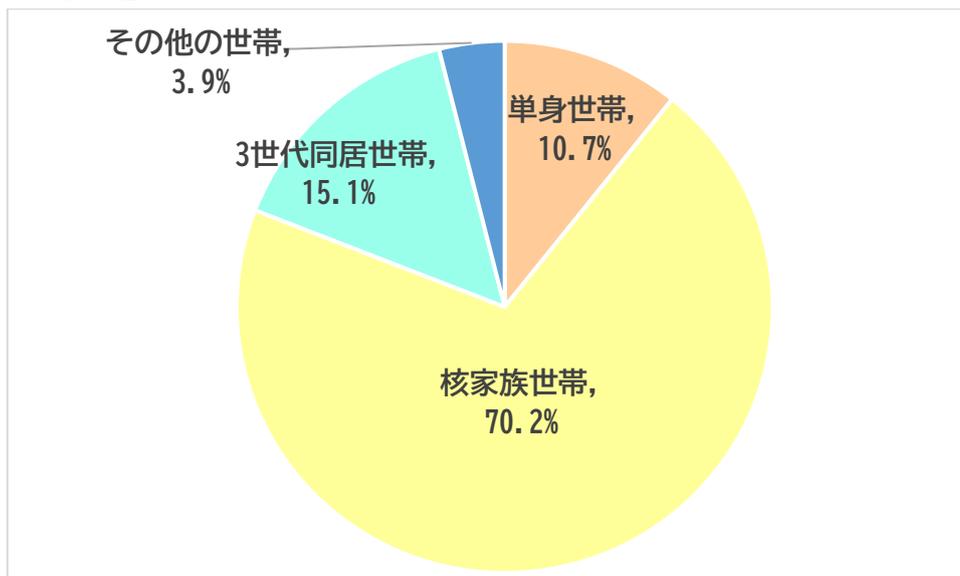
問1 性別



問2 年齢

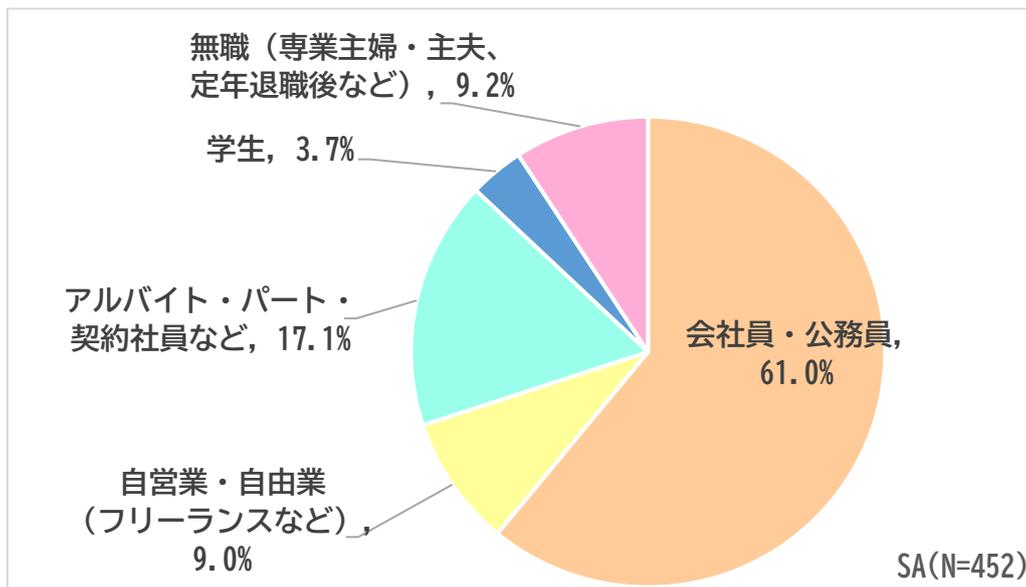


問3 一緒に暮らしている人

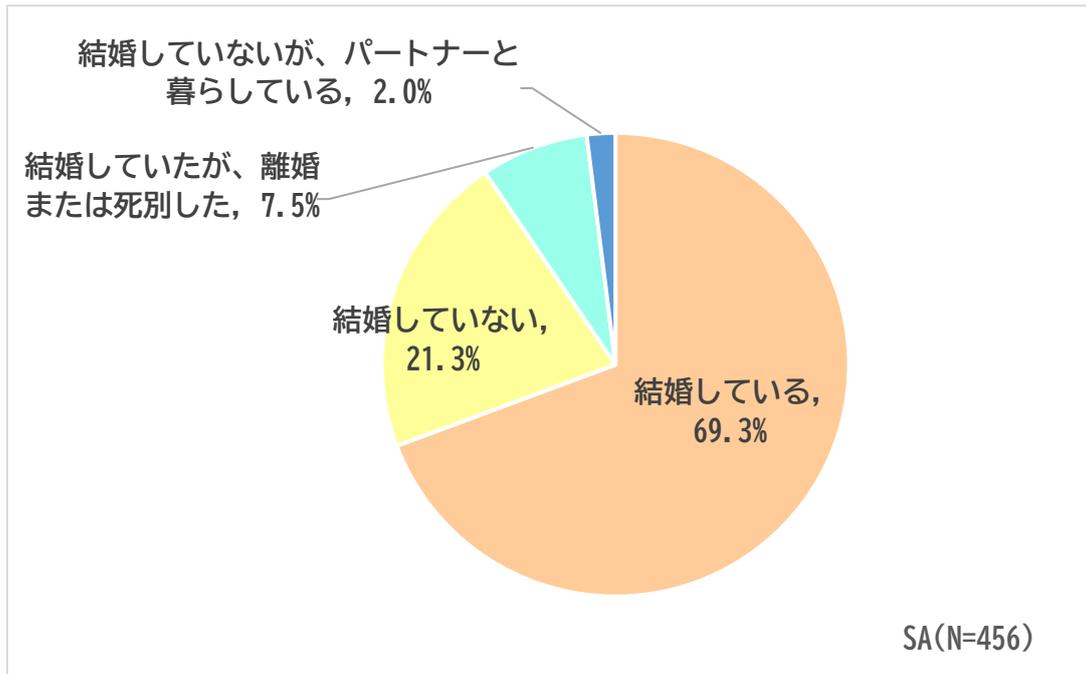


その他の世帯は、主に自身の配偶者と親と暮らす世帯や、自身の兄弟姉妹とのみ暮らす世帯等が含まれる。なお、3世代同居世帯には一部4世代同居世帯も含まれる。

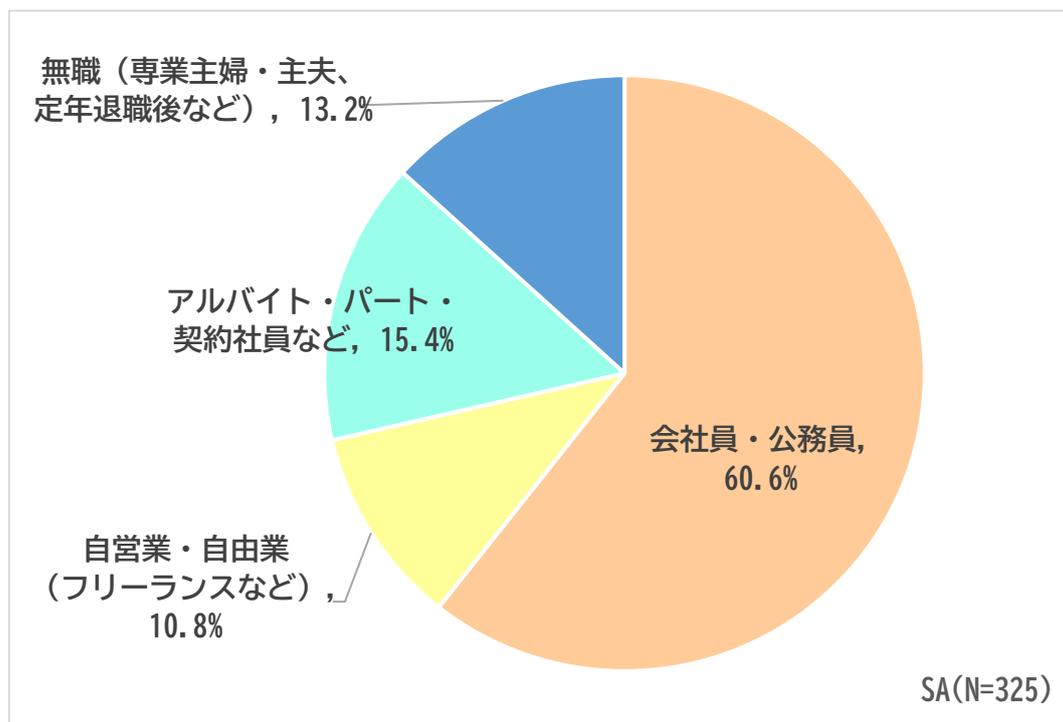
問4 職業



問5 結婚



問6 配偶者・パートナーの職業



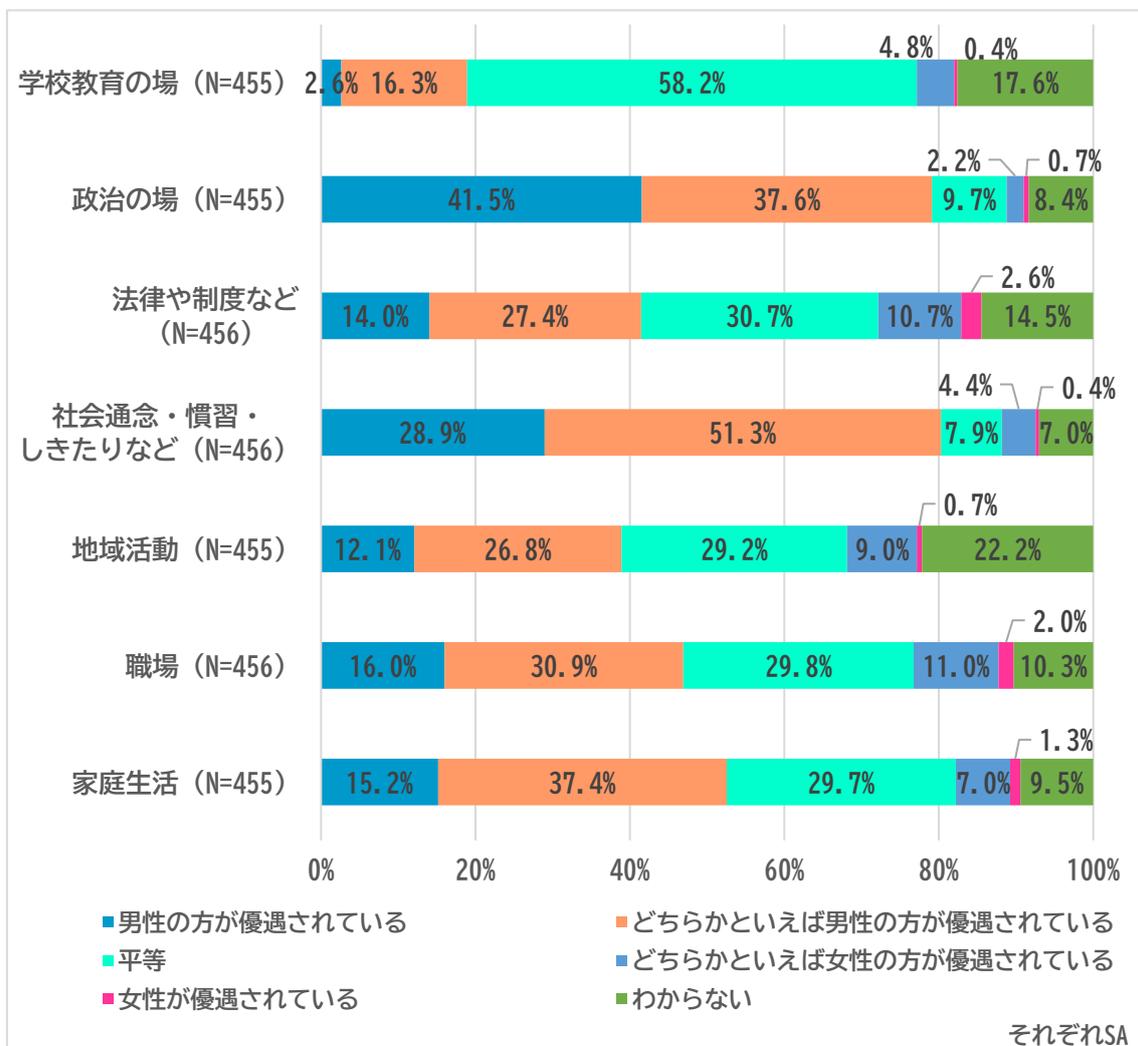
Ⅲ 調査結果

◇男女平等に関する認識について

問7～13 現在、次の7つの分野で男女平等になっていると思いますか。
(それぞれ1つ選択)

平等と思う分野は、「学校教育の場」(58.2%)が最も高く、次いで「法律や制度など」(30.7%)が高くなっている。

「男性が優遇されている」という認識は「社会通念・慣習・しきたりなど」、「政治の場」で特に高い(「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計でそれぞれ80.2%、79.1%)。

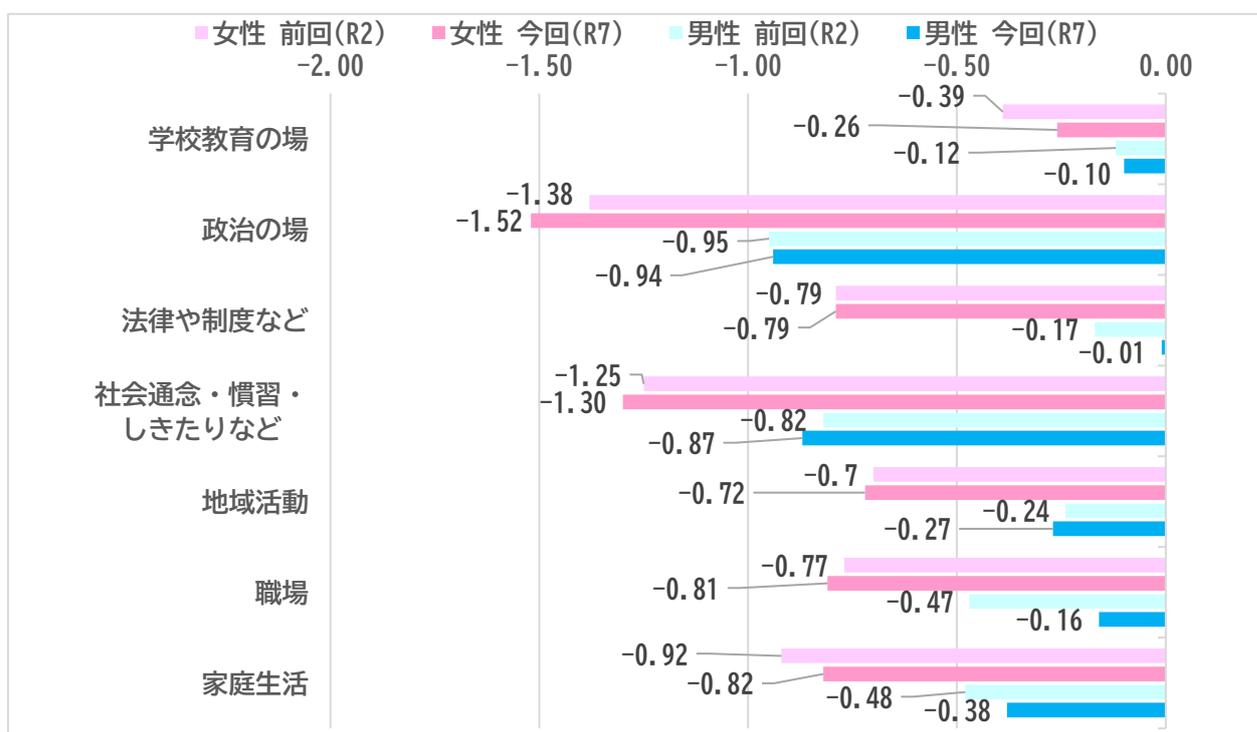
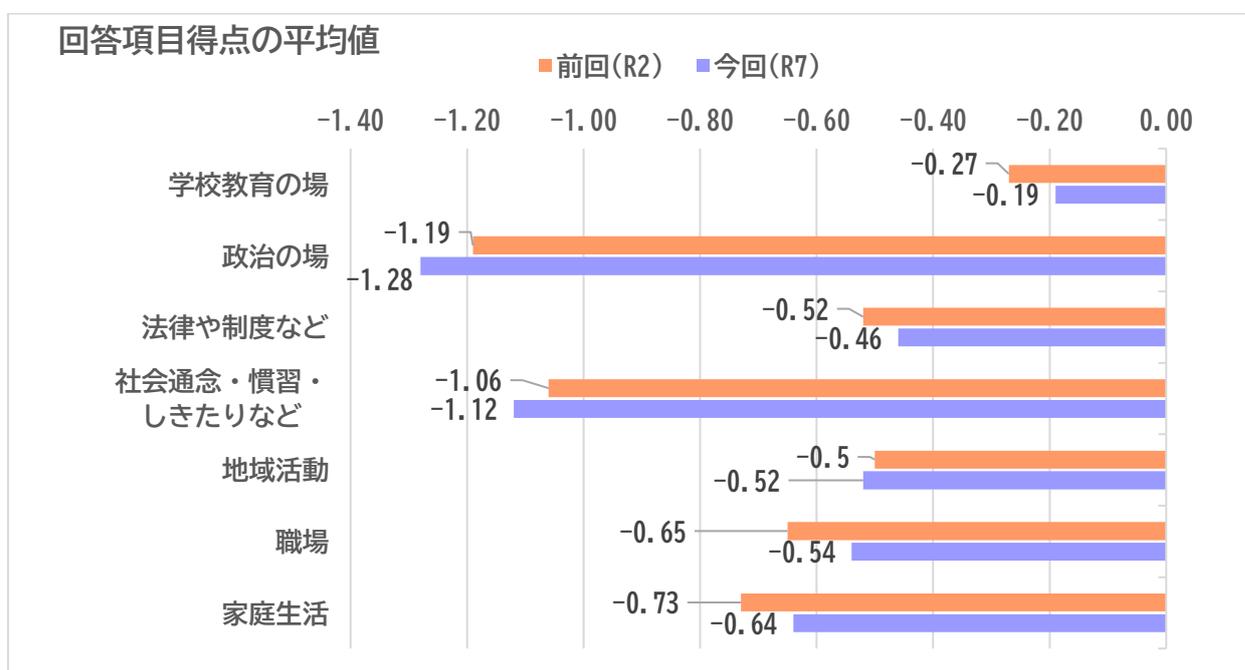


回答項目を下記の表により得点化し、その平均値をグラフ化した結果、全ての項目で「男性優遇」(平均値がマイナス)となった。

全ての項目で「男性優遇」となったのは前回調査と変わらないが、「家庭生活」、「職場」、「法律や制度など」、「学校教育の場」では「男性優遇」の認識がやや減少したものの、「地域活動」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「政治の場」では「男性優遇」の認識が増加した。

性別で見ると、男女の意識の差は各項目で大きいですが、前回と比較すると、「職場」や「法律や制度など」で「男性が優遇」という認識を持った男性が減った。

男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等わからない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている
-2点	-1点	0点	1点	2点



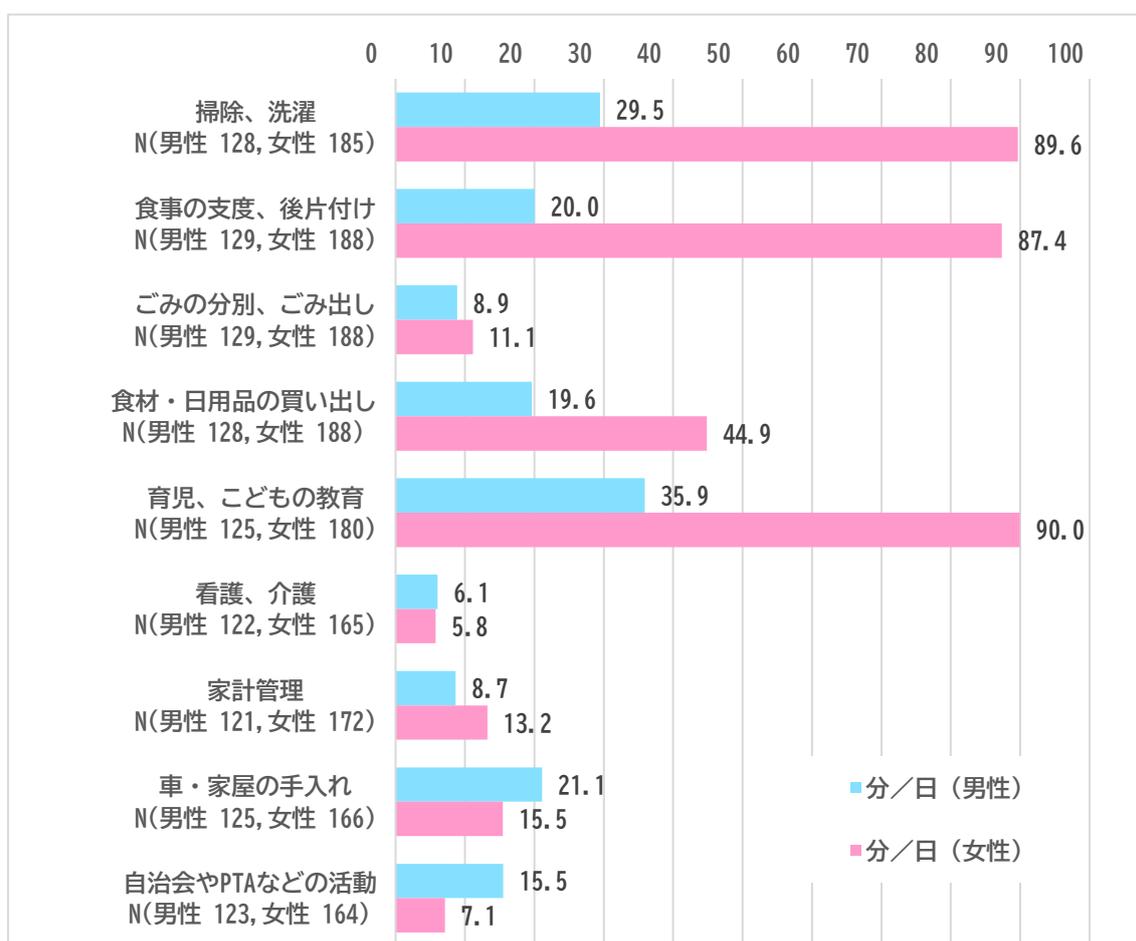
◇家庭における役割分担について

問14～22 1日あたり平均で何分くらいの家事をしていきますか。
(それぞれ時間数(分)を回答)

※問5で「結婚している」、「結婚していないが、パートナーと暮らしている」と答えた人のみに質問。

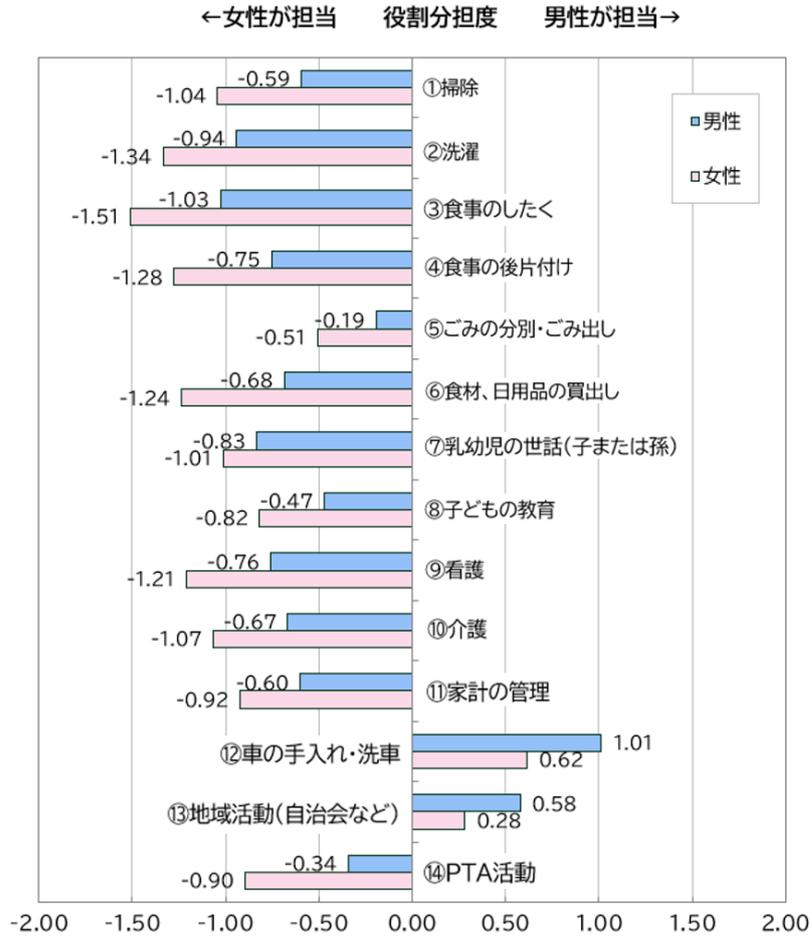
「ごみの分別、ごみ出し」、「看護、介護」、「家計管理」では、男女で顕著な差は見られなかった。

一方、「掃除、洗濯」、「食事の支度、後片付け」、「食材・日用品の買い出し」、「育児、こどもの教育」では男女で大きく差が開いた。



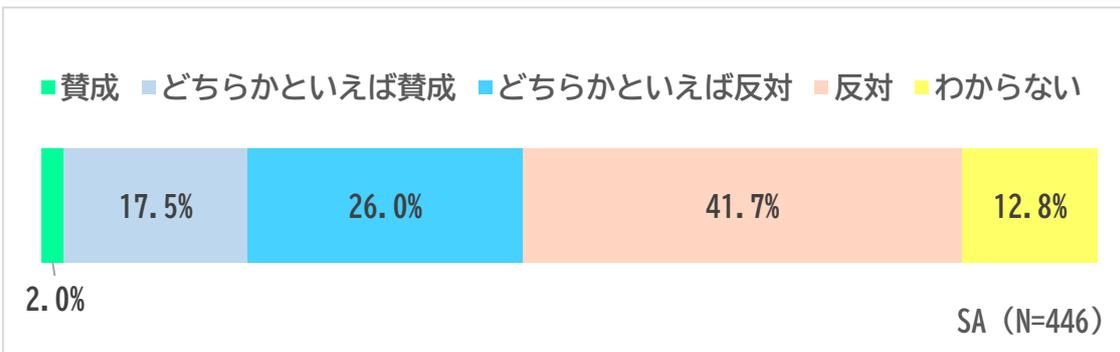
今回の調査で男女差が大きかったこれらの項目はいずれも、どちらが主に担当しているかという設問の回答をポイント化した前回調査でも差が大きかった項目だが、今回、1日にかかる時間の差を調査したところ、複数の項目において男女間で大きな差があることがわかった。

《参考》前回 (R2) 調査結果

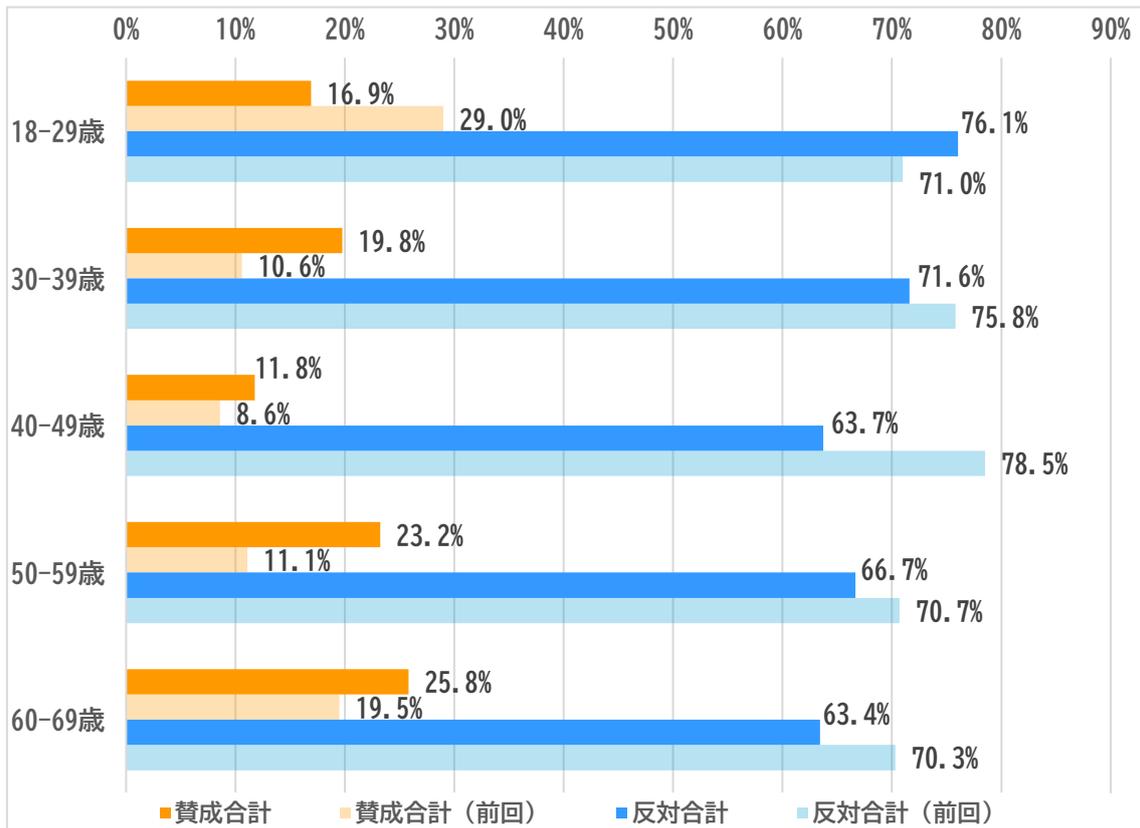
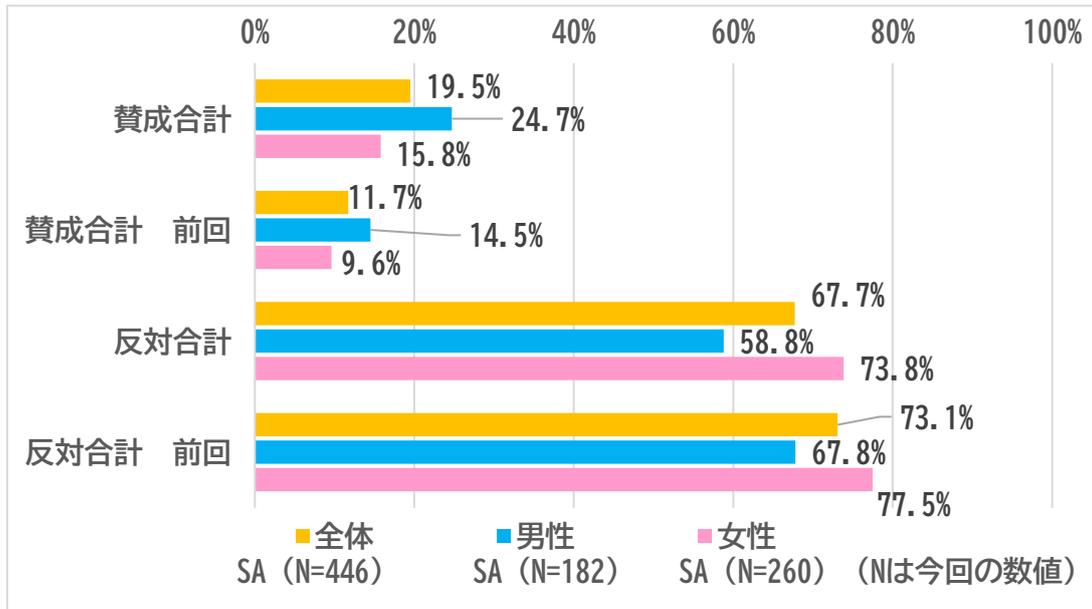


問23 夫は外で働き、妻は家庭で家事・育児に専念するべきである。
(1つ選択)

「反対」、「どちらかといえば反対」を合計すると、67.7%となった。
 前回調査結果と比較すると、全体でも、男女別でも、反対の割合が若干減った。
 世代で見ると、18～20代までで、賛成の合計は減ったが、30代では、増えた。
 また、30代から60代までのすべてで、賛成の合計が増え、反対の合計が減った。



《参考》前回（R2）調査結果との比較



問24～26 自分と配偶者・パートナーの家事等分担や働き方について、理想のバランスと実態に近いものをそれぞれ1つ選択してください。

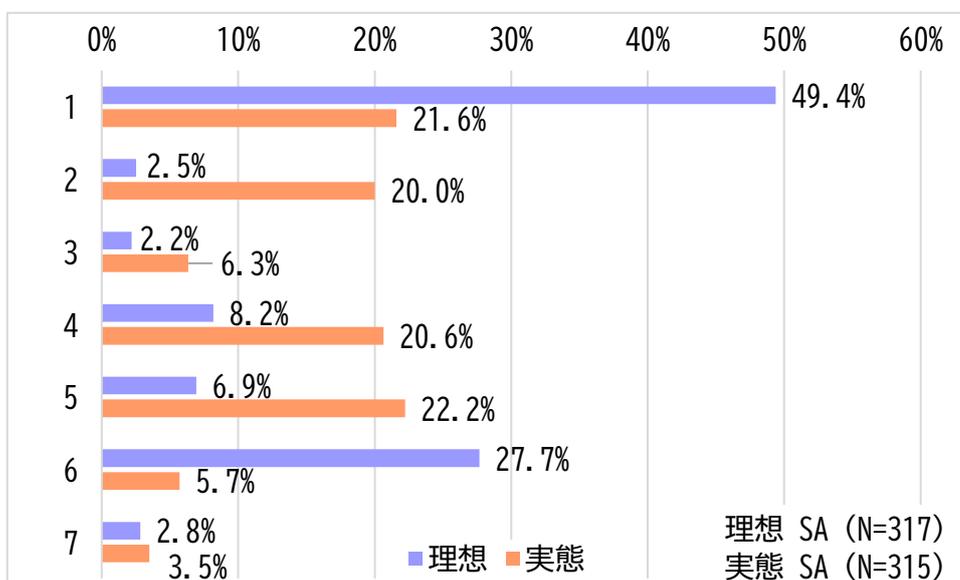
※問5で「結婚している」、「結婚していないが、パートナーと暮らしている」と答えた人のみに質問。

選択肢

- 1 【仕事】夫婦・パートナー共にフルタイム
【家事】協力して概ね均等に分担する
- 2 【仕事】夫婦・パートナー共にフルタイム
【家事】主に自分が担当する
- 3 【仕事】夫婦・パートナー共にフルタイム
【家事】主に配偶者・パートナーが担当する
- 4 【仕事】自分はフルタイム、配偶者・パートナーは働き方を調整
【家事】主に配偶者・パートナーが担当する
- 5 【仕事】自分は働き方を調整、配偶者・パートナーはフルタイム
【家事】主に自分が担当する
- 6 【仕事】夫婦、パートナー共に働き方を調整
【家事】協力して概ね均等に分担する
- 7 その他

約半数は、フルタイム共働きで家事を均等に分担する「1」が理想だと答えたが、実態が「1」になっている割合は、全体の21.6%にとどまった。

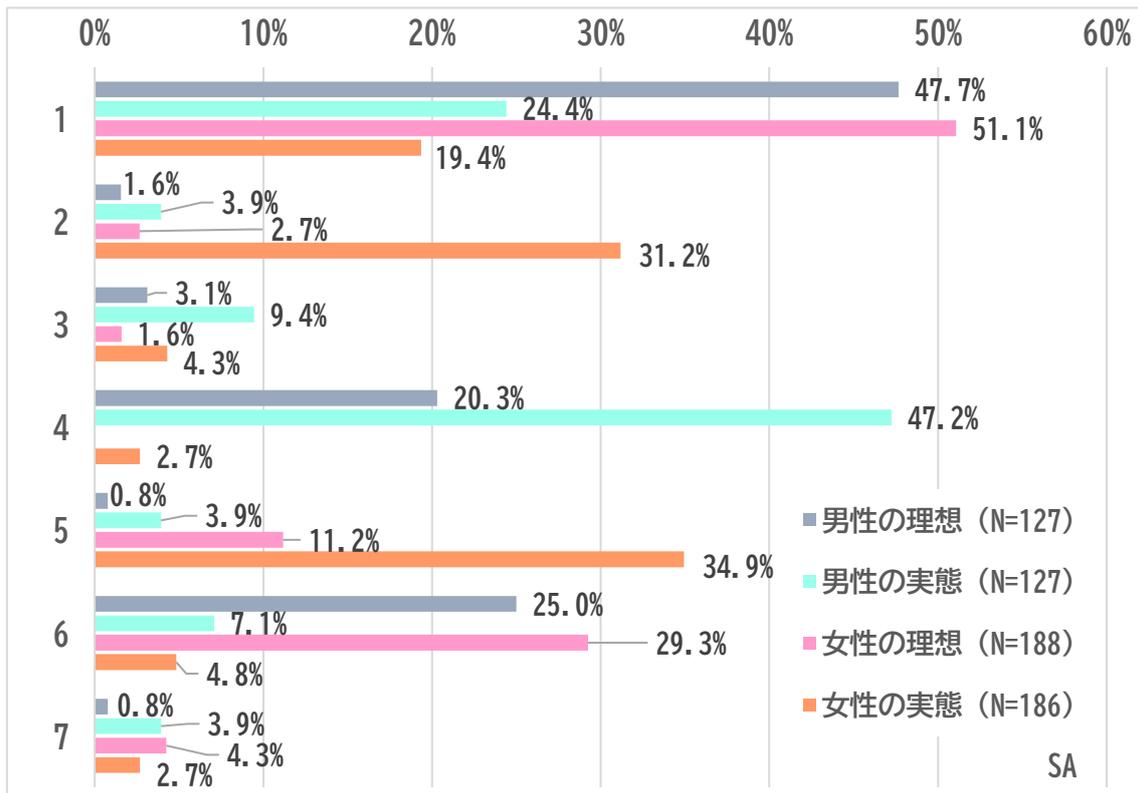
また、フルタイム共働きで家事は主に自分が担当する「2」が理想の人は、わずか2.5%だが、実態としては、20.0%にのぼることがわかった。



男女別の集計では、「1」を理想と答えた割合が男女ともに約半数を占めた一方で、男女いずれも、実態が「1」であるのは全体の2割程度で、理想との乖離が見られた。

また、理想で、家事を均等に分担する選択肢である「1」と「6」それぞれの回答の割合を合計すると、男性で72.7%、女性で80.4%で、男女ともに、平等な家事分担を理想としている人が多いことがわかった。

また、男性の実態で最も多い「4」、女性の実態では最も多い「5」、次に多い「2」は、いずれも女性が主に家事を担当する選択肢であり、実態としては夫婦の働き方に関わらず、家事の負担が女性に偏っていることがわかった。



【理想のバランス】「その他」のコメント

- ・ 自分は働き方を調整、配偶者・パートナーはフルタイム。家事は協力して概ね均等に分担する。(女性・30代)

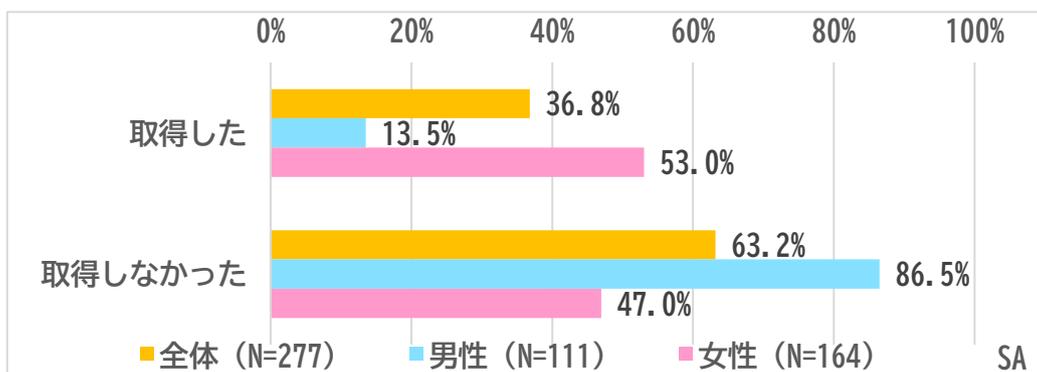
【実態に近いもの】「その他」のコメント

- ・ 仕事:自分はフルタイム、配偶者は働き方を調整 家事:自分が休みの時は担当する。配偶者は料理のみ(男性・40代)
- ・ 夫はフルタイム、配偶者はパート勤務にもかかわらず、家事、家計は全て夫です。妻は幼稚園勤務で朝早くから幼い子供を預けに来る父がいるようですが、妻は家庭を守り育児に専念することが望ましいと思います。(男性・50代)
- ・ 自分はフルタイム、パートナーは無職なにもしない(女性・60代)
- ・ 配偶者はアルバイト 今は自分は専業主婦なので家事は 8割が自分(女性・60代)

◇男女とも活躍できる職場環境・地域づくりの推進について

問27 本人や配偶者・パートナーが出産された方にのみお聞きします。
あなたは育児休業を取得しましたか。

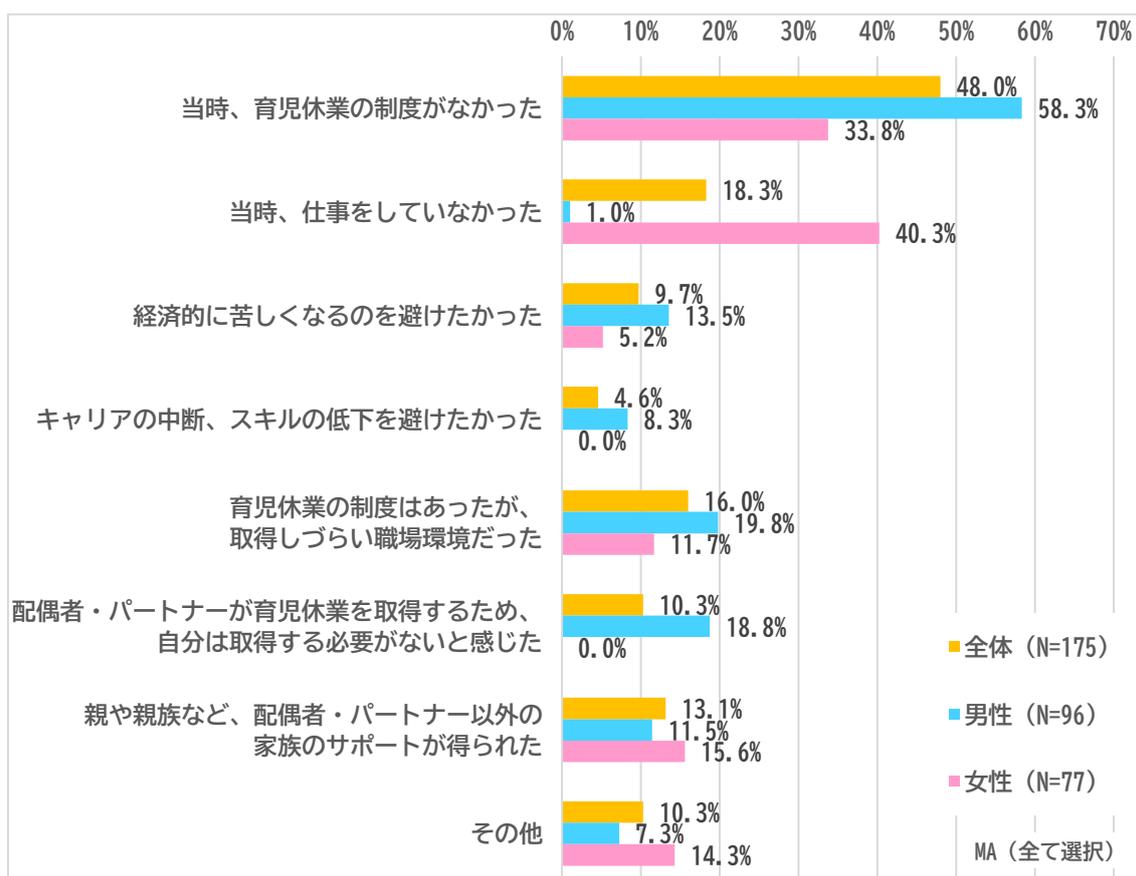
前回調査では出産後(産後及び育児休業取得後含む)に仕事を辞めなかった女性のみが質問対象であったが、今回、男性も対象としたところ、男性の取得率は女性の取得率の約4分の1であることがわかった。



問28 育児休業を取得しなかった理由を全て選択してください。

※問27で「取得しなかった」と答えた人のみに質問。

取得しなかった理由のうち、回答者全体では「当時、育児休業の制度がなかった」が最も多く、回答者全体のうち 48.0%を占め、男性では、約6割をこの理由が占めるが、女性では、「当時、仕事をしていなかった」が40.3%で最も多い。



「その他」のコメント

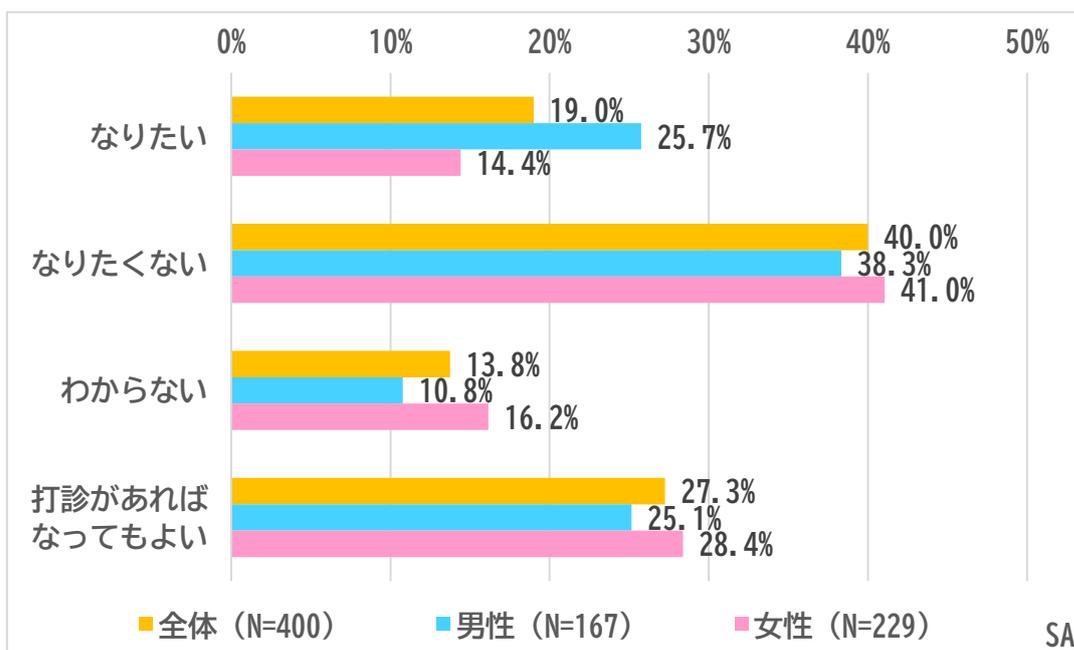
- ・ 仕事で福井市に引っ越してきて妻は無職だった為(男性・30代)
- ・ 当時会社に制度があったかわからない。現在はあります(男性・30代)
- ・ 自営業の為、休めない(男性・40代)
- ・ 自営業である為、休む時間は自分で調節できた(男性・40代)
- ・ パートだったので、妊娠と共に仕事を辞めた(女性・40代)
- ・ 短時間のパート勤務だったため育児休業の対象ではなかった(女性・40代)
- ・ 当時は自営業だった為(女性・50代)
- ・ 自営業の為、子育てしながら仕事(女性・50代)
- ・ 配偶者がサポートしてくれた(女性・50代)
- ・ 義理母から、すぐ働けと言われた(女性・50代)
- ・ 配偶者・パートナーが家事専業であったため、自分は取得する必要がなかった(男性・60代)
- ・ 正規採用ではなかったため、取得できなかった(女性・60代)

問29 管理職になることについて、どう思いますか。管理職経験のある方は、管理職になる前の気持ちを教えてください。(1つ選択)

前回調査では、女性のみが質問の対象であり、「なりたくない」が47.7%であったが、今回、男性も質問の対象とし、また、回答に「打診があればなってもよい」という選択肢を加えた。

女性の「なりたくない」は、前回同様に40%を超えたが、男性でも、女性とほぼ同程度の割合の人が、「なりたくない」と考えていることがわかった。

男性の「なりたい」は25.7%で、女性の14.4%よりも10ポイント強高い一方、「なりたくない」は男女で同じくらいの割合となった。



問30 「なりたくない」と答えたのは、どのような理由からですか。最も近い理由を1つだけ選択してください。

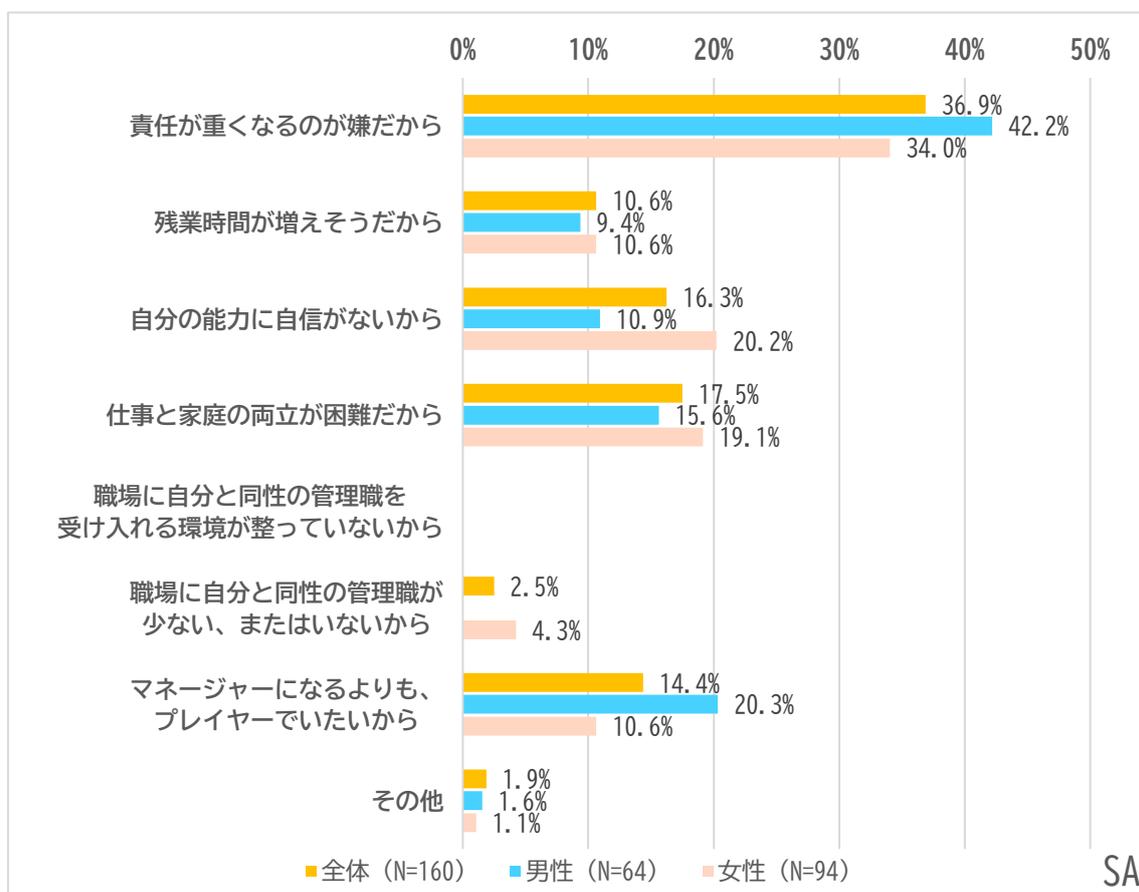
※問29で「なりたくない」と答えた人のみに質問。

男女ともに、「責任が重くなるのが嫌だから」が最も多く、全体の36.9%を占めた。

「職場に自分と同性の管理職を受け入れる環境が整っていないから」を選んだ人は男女共にいなかった。「職場に自分と同性の管理職が少ない、またはいないから」を選んだ男性はおらず、女性でもごくわずかであった。

その他の回答の男女比較では、「自分の能力に自信がないから」という回答は、男性の10.9%に対し、女性では、20.2%と、約2倍となった。

また、「マネージャーになるよりも、プレイヤーでいたいから」という答えは、女性が10.6%であるのに対し、男性は20.3%と、約2倍となった。



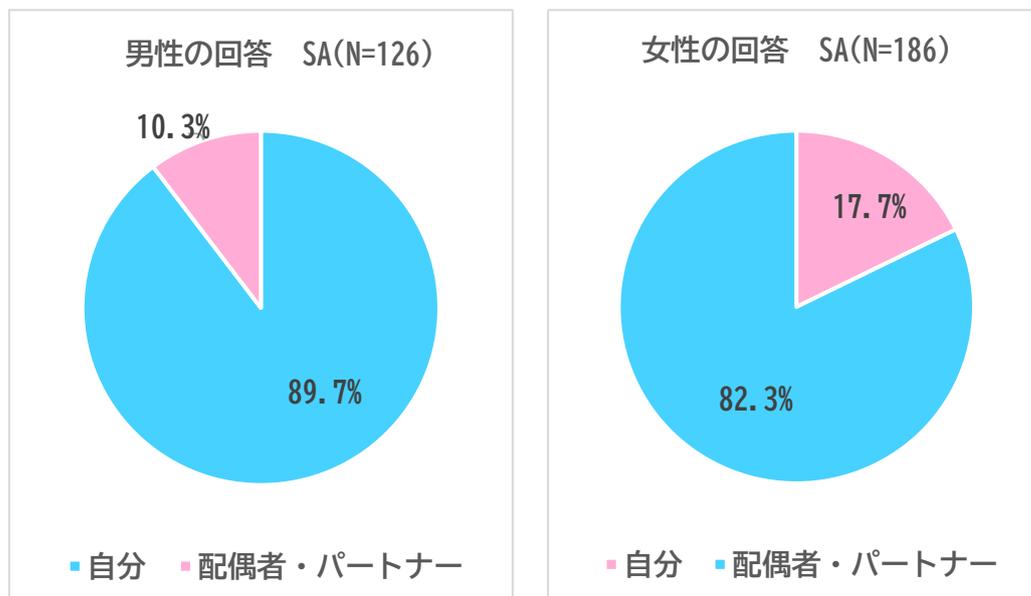
「その他」のコメント

- ・ 責任は問われるのに、給料はそんなに変わらないから(女性・20代・既婚)
- ・ 責任のみ押しつけられて仕事量は減らない。やりたいと思う人がなれば良いと思う(その他/答えない・40代・離婚/死別)

問31 夫婦のうちどちらかが自治会長や自主防災組織等の役員をすることとなった場合、夫婦のどちらが担当しますか。

※問5で「結婚している」、「結婚していないが、パートナーと暮らしている」と答えた人のみに質問。

男性は「自分」という回答が約9割、女性では「配偶者またはパートナー」という回答が8割超となった。この傾向は、男女の全年代で同じであった。

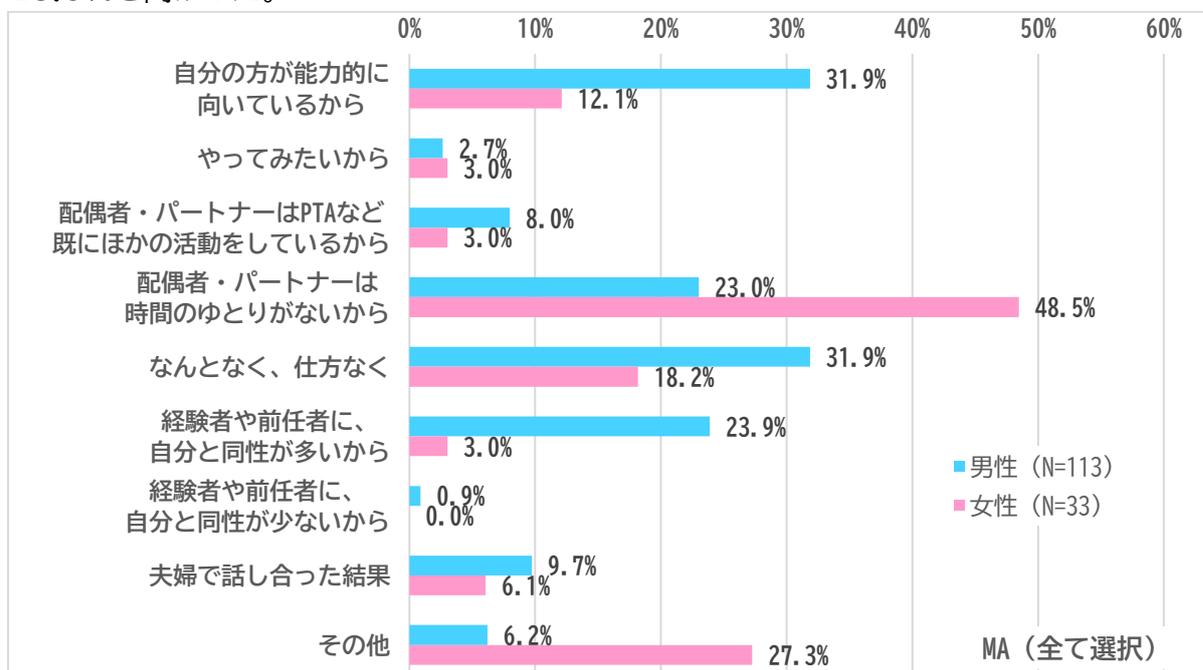


問32 「自分」を選択した理由を全て選択してください。

※問31で「自分」を選択した人のみに質問。

男性では、「自分の方が能力的に向いているから」は、女性の倍以上で31.9%である一方、「なんとなく、仕方なく」も31.9%と、女性と比較して、高かった。

女性で自分を選んだ人は、「配偶者・パートナーは時間のゆとりがないから」が48.5%と高かった。



「その他」のコメント

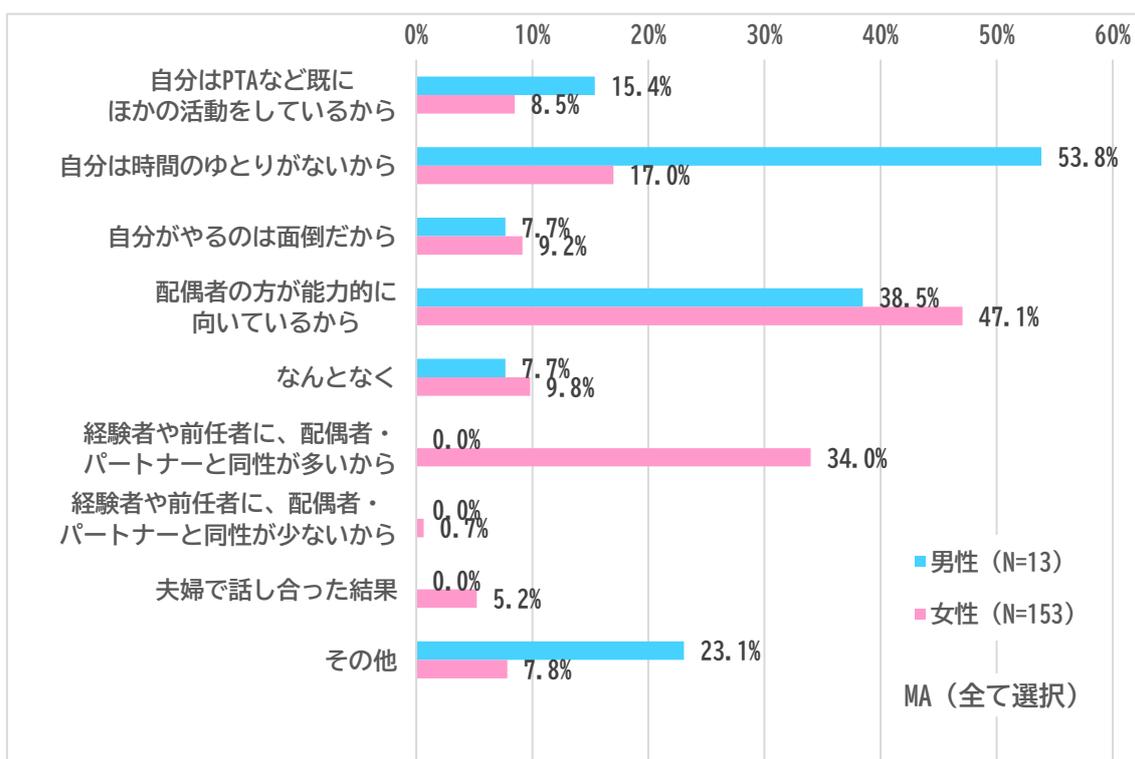
- ・ 夫婦で一緒にやる。(女性・30代)
- ・ 仕事の都合上休みが不規則なため、集まり事には参加できない(女性・30代)
- ・ 配偶者が非協力的(女性・40代)
- ・ 配偶者がしたくないと言うので。(女性・40代)
- ・ 時間の関係かな……(女性・40代)
- ・ 配偶者は地域との関わりをしないため(女性・40代)
- ・ 自治会は面倒事が多く、調整役として負担が多い(男性・40代)
- ・ 負担がかかるなら自分の方が良いから(男性・40代)
- ・ パートナーが嫌がる(女性・50代)
- ・ 夫とは別居世帯なので、世帯主が自分であるため(女性・50代)
- ・ 自分の地域の自治会の役員は、男性のみで構成されているから(男性・50代)
- ・ 配偶者がこういった活動が嫌いだから(女性・60代)
- ・ 配偶者にはそれよりも家事をやって貰いたいし、配偶者もそれを望んでいるから(男性・60代)
- ・ 配偶者がやりたくない(男性・60代)
- ・ 自治会での選挙(男性・60代)
- ・ ずっと地元で顔なじみだから(男性・60代)

問33 「配偶者・パートナー」を選択した理由を全て選択してください。

※問31で「配偶者・パートナー」を選択した人のみに質問。

男性で配偶者を選んだ人の回答では、「自分は時間のゆとりがないから」が最も多い。

女性で配偶者を選んだ人は、「配偶者の方が能力的に向いているから」が最も多く、次に「経験者や前任者に、配偶者・パートナーと同性が多いから」が続く。



「その他」のコメント

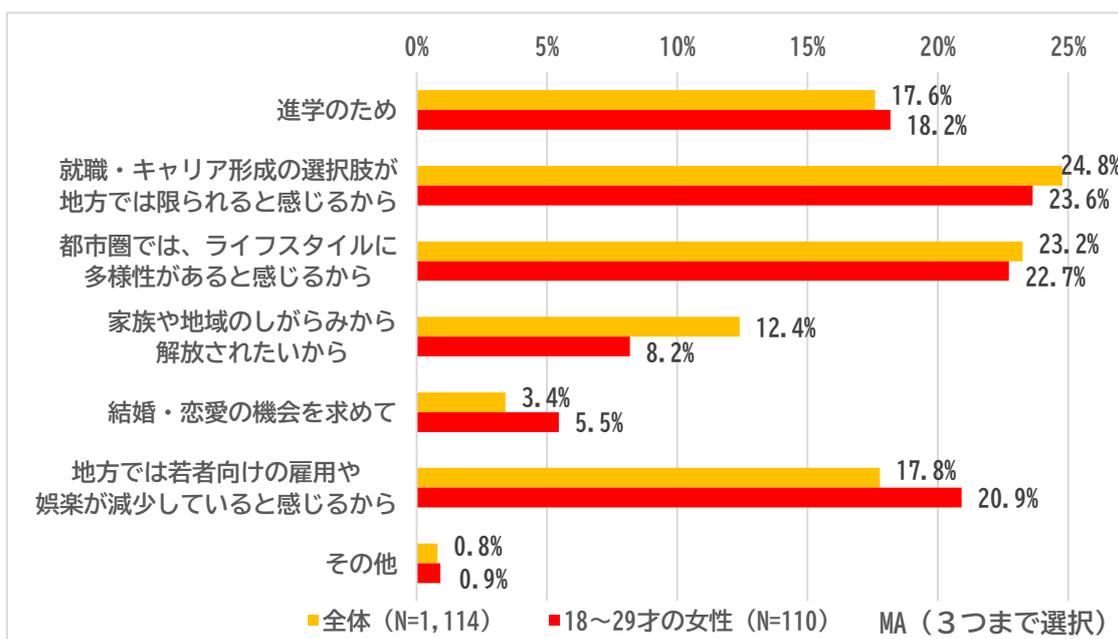
- ・ そもそも参加したくない。配偶者も参加させたくない(女性・30代)
- ・ 仕事が建設業で単身赴任、出張の可能性がある。また土日祝が仕事になる可能性もおおいにあるため土日祝のイベント等には参加できない可能性がある(男性・30代)
- ・ 昔からのしきたり、ルールが面倒くさいし、すぐ問題が起きる。関わりたくない。可能なら自治会は無くして欲しい。(女性・30代)
- ・ 地域の役員決めで女性の私が参加したら「役員を逃れるためか」と嫌味を言われた(女性・30代)
- ・ それ以外のことを全てしているから(女性・30代)
- ・ そもそも女性側に頼まれない(女性・40代)
- ・ メンバーのほとんどが男性のため(女性・40代)
- ・ 私がやるくらいなら引っ越す。PTAは脱退する(女性・40代)
- ・ 男性の方が役をやる地区だから。(女性・40代)
- ・ 町内会のために有休を取りたくても、女性だから町内会の仕事は夫にさせればいいのではと理解されずできない。(女性・40代)
- ・ 配偶者の地元で顔が広いから(男性・40代)
- ・ 仕事の融通がきかないから(男性・40代)
- ・ それぐらいはしてほしい(女性・50代)
- ・ その都度話し合っって決める(女性・50代)
- ・ リタイヤして家にいるから(女性・60代)

◇女性に選ばれる地域づくりについて

問34 若い女性が都市圏に転出する理由は何だと思えますか。
(3つまで選択)

全体としては、「就職・キャリア形成の選択肢が地方では限られると感じるから」、「都市圏では、ライフスタイルに多様性があると感じるから」という、仕事や生活面での多様性が必要という回答が多かった。

男性を含む全体と、18～29才の女性との比較では、傾向に大きな差はみられなかった。



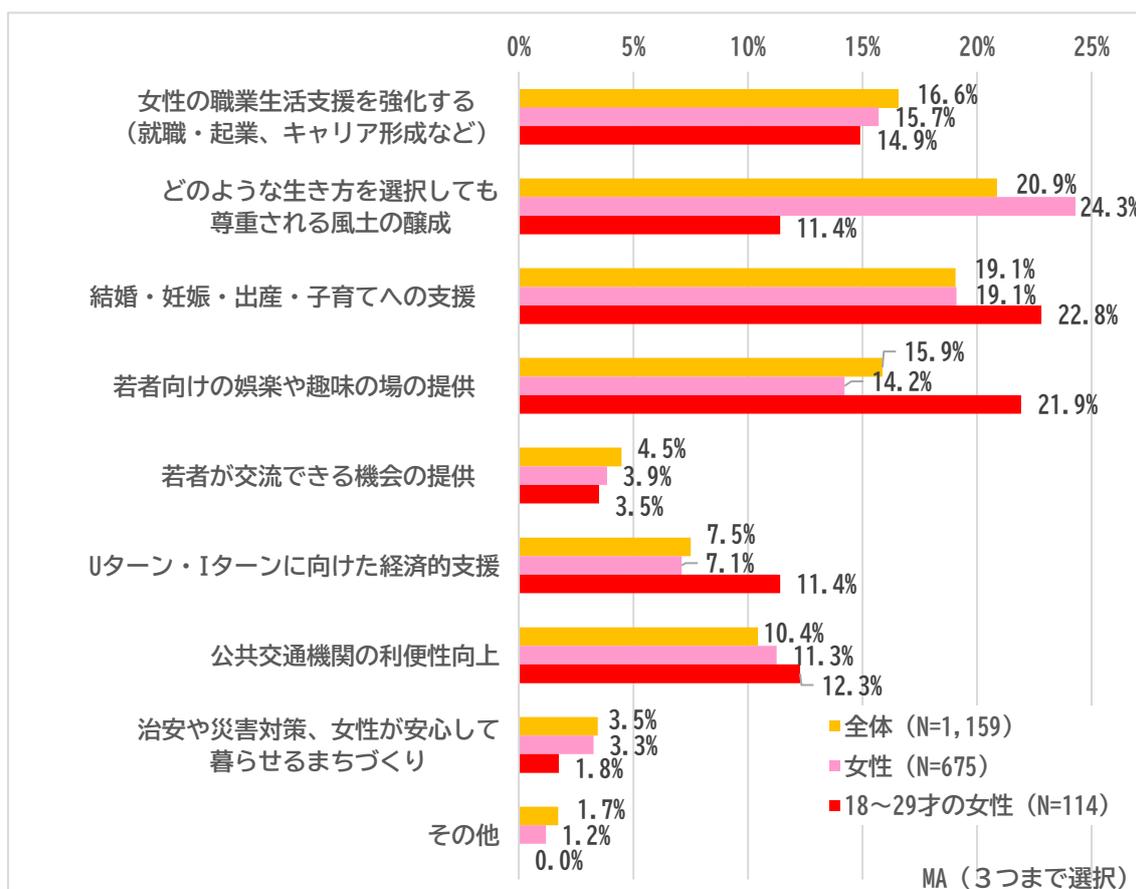
「その他」のコメント

- ・ 都会の暮らしに憧れるから(女性・10代・未婚)
- ・ よりキャリア、給料、ルックスのある男性と結婚するため(男性・20代・未婚)
- ・ 昔ながらの、女性は家で家事をするという考えが苦しいと思う(男性・20代・未婚)
- ・ 給与アップ、上記の結婚恋愛の機会以外全て(女性・30代・既婚)
- ・ 全部の項目だと思います。目的はバラバラかもしれませんが福井と〇〇県を比較してしまうと見えてる事、物が違って見えるので魅力的なのかと思います(男性・40代・未婚)
- ・ 華やかで惹かれるから(女性・40代・既婚)
- ・ わからない(男性・40代・既婚)
- ・ 時代遅れの固定観念が蔓延しているから(男性・50代・未婚)
- ・ 年上女性の境遇や考え方を見て、ここに留まっても未来がないと感じるから(女性・60代・既婚)

問35 若い女性が福井に定着するために必要なことは何だと思いますか。
(3つまで選択)

全体では「どのような生き方を選択しても尊重される風土の醸成」(20.9%)と「結婚・妊娠・出産・子育てへの支援」(19.1%)が上位だった。また、「治安や災害対策、女性が安心して暮らせるまちづくり」を選んだ人は3.5%と、少なかった。

若年女性である18～29才の女性では「結婚・妊娠・出産・子育てへの支援」(22.8%)と「若者向けの娯楽や趣味の場の提供」(21.9%)が高い傾向があり、特に「若者向けの娯楽や趣味の場の提供」では、全体や女性全体との比較で、5ポイント以上の差があった。



「その他」のコメント

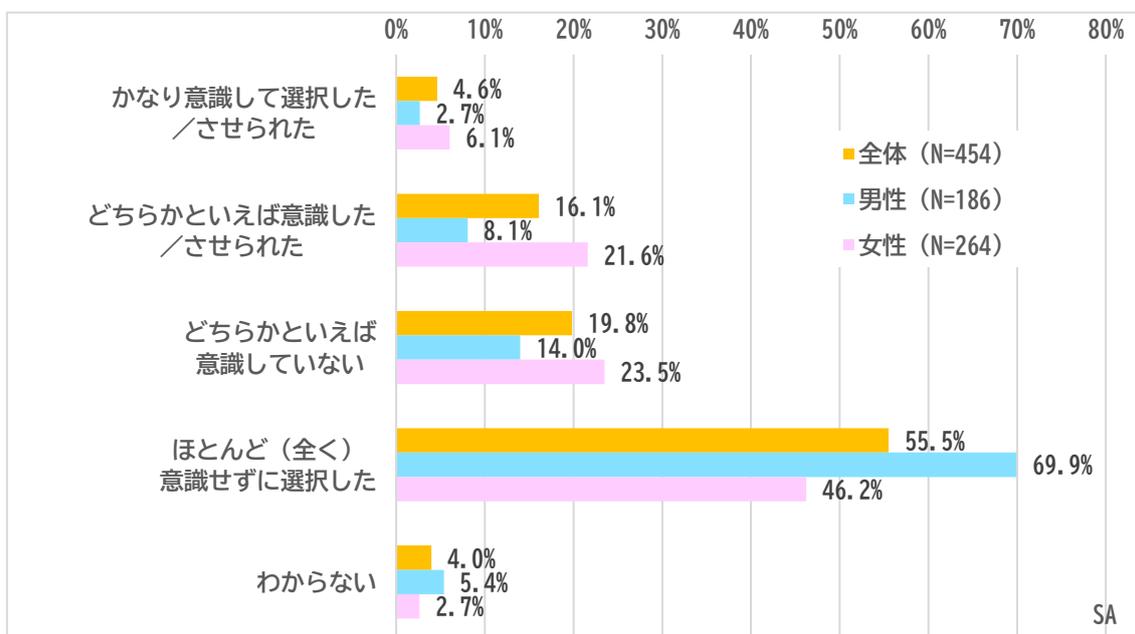
- ・ 上記全て(女性・30代・既婚)
- ・ 妊娠しその後子育てと仕事を両立する為の支援の場があれば良いのではないかと(女性・40代・既婚)
- ・ プライベートを詮索しすぎない雰囲気(女性・40代・既婚)
- ・ 賃上げ(女性・40代・既婚)
- ・ 田舎の古い考え方を若い世代に強制しないこと。寺との関わりとか全く理解できない(女性・40代・既婚)
- ・ 男尊女卑文化の改善(女性・40代・既婚)
- ・ 働き場(女性・40代・既婚)
- ・ コンサート等イベント招致(男性・40代・既婚)
- ・ 都市圏には勝てない(男性・40代・既婚)
- ・ 無い(男性・40代・既婚)

- ・ わからない(男性・40代・既婚)
- ・ 都会に匹敵する文化商業娯楽など魅力を持つ市になる。(男性・50代・既婚)
- ・ 無理だと思います。手遅れです(理由は末尾)。(男性・50代・未婚)
- ・ 事務職における都市圏相当の給与レベルの確保(男性・60代・既婚)
- ・ 結婚・妊娠・出産・子育てへの支援が必要だと思いますが、福井市はこれらの支援が充実していると思います。(男性・60代・離婚/死別)
- ・ 若者が働きたい企業の誘致又は設立(男性・60代・既婚)
- ・ 魅力ある就職先(男性・60代・既婚)
- ・ 日本を代表するような大企業を誘致する(男性・60代・既婚)
- ・ 男尊女卑的な考え方や古い結婚観の排除(若い女性の下働きの・性的な扱いの排除、嫁に行く・嫁にもらうといった「家」的な考え方による夫側親との同居や介護の期待)(女性・60代・既婚)

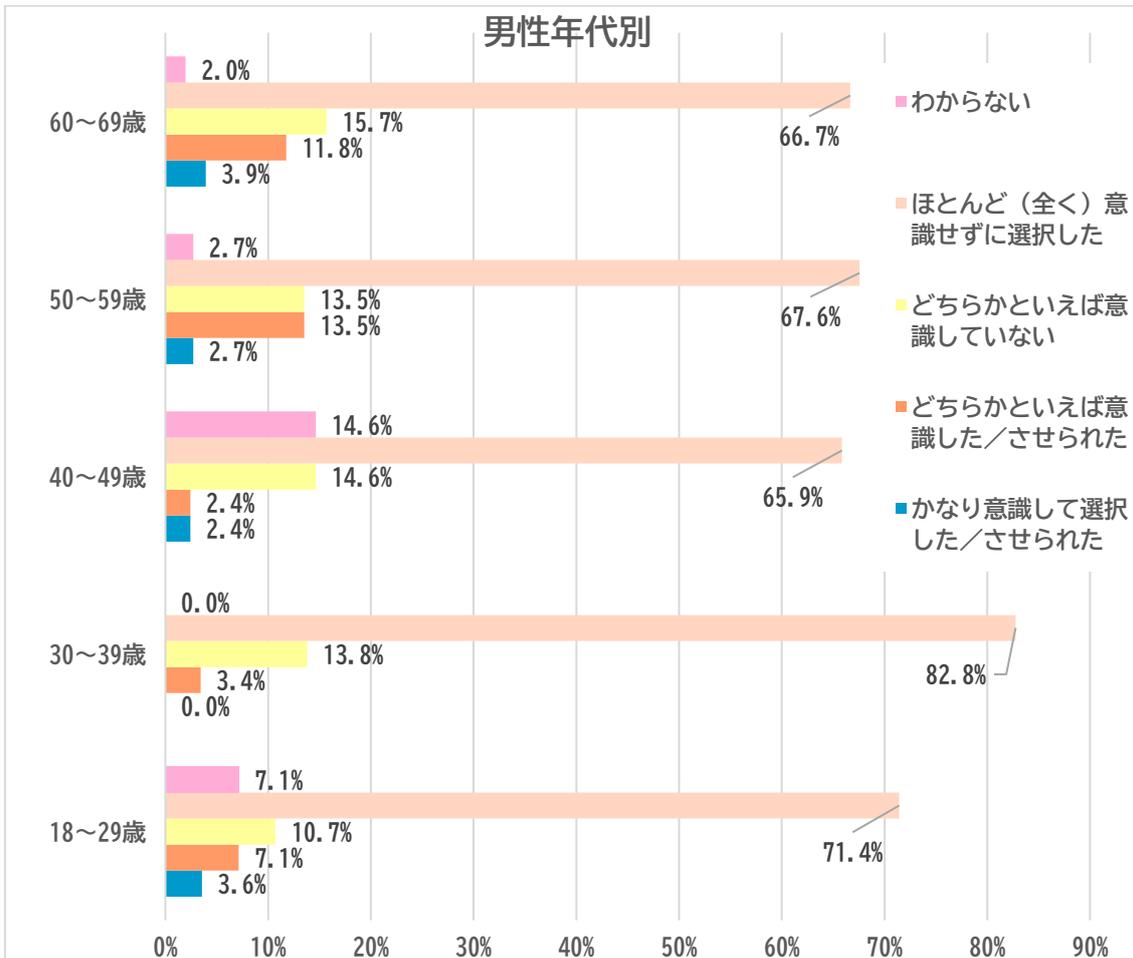
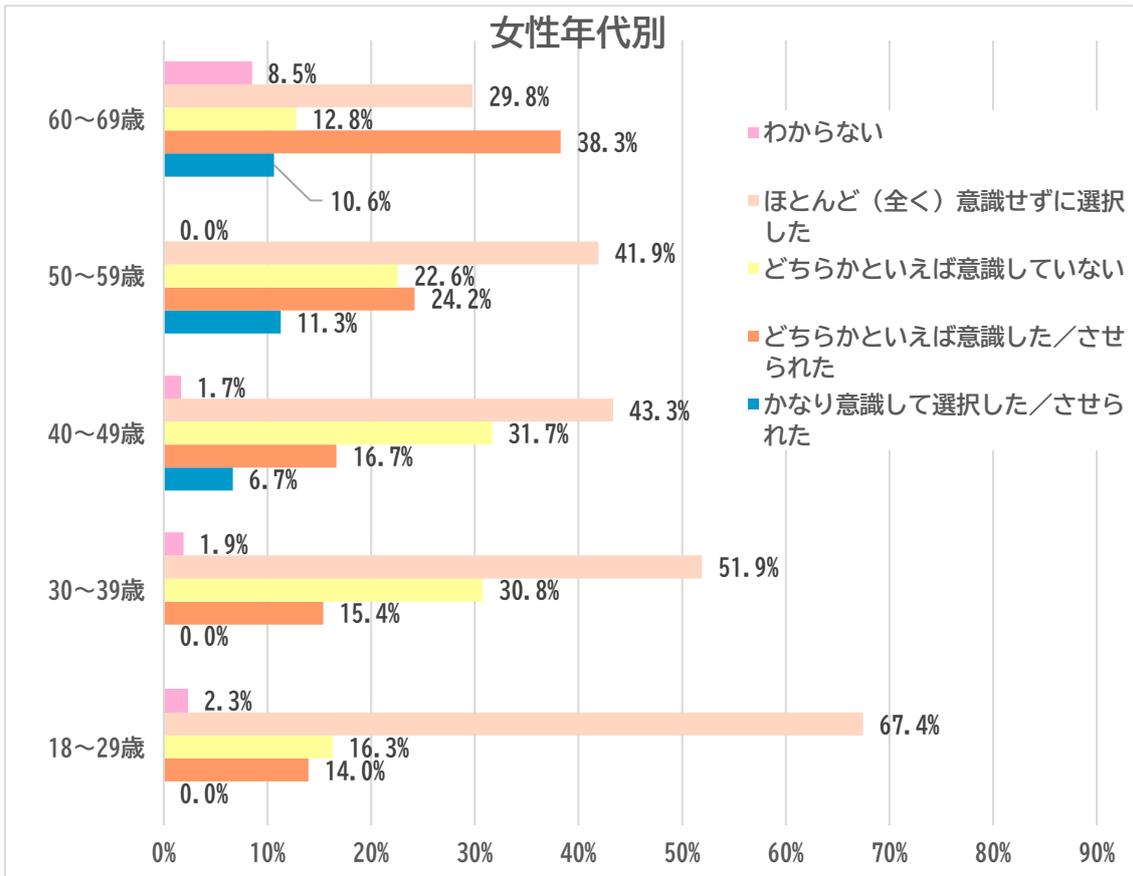
◇個性や能力を生かす学校教育の推進について

問36 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。
(1つ選択)

「かなり意識して選択した/させられた」、「どちらかといえば意識した/させられた」を合わせると、男性では10.8%のところ、女性では、27.7%と、男女で差があった。



女性のうち、「かなり意識して選択した/させられた」「どちらかといえば意識した/させられた」の合計は、60代で最も高く、48.9%だが、年代が下がるにつれて下がり、18~29歳では14.0%となった。「どちらかといえば意識していない」、「ほとんど(全く)意識せずに選択した」の合計は、年代が下がるにつれて上がり、18~29歳では83.7%となった。この数字は、18~29歳の男性では82.1%であった。



◇ポジティブ・アクションについて

ポジティブ・アクションとは、社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で特別の機会を提供することなどにより、実質的な機会均等を実現することを目的として講じる暫定的な措置のことです。

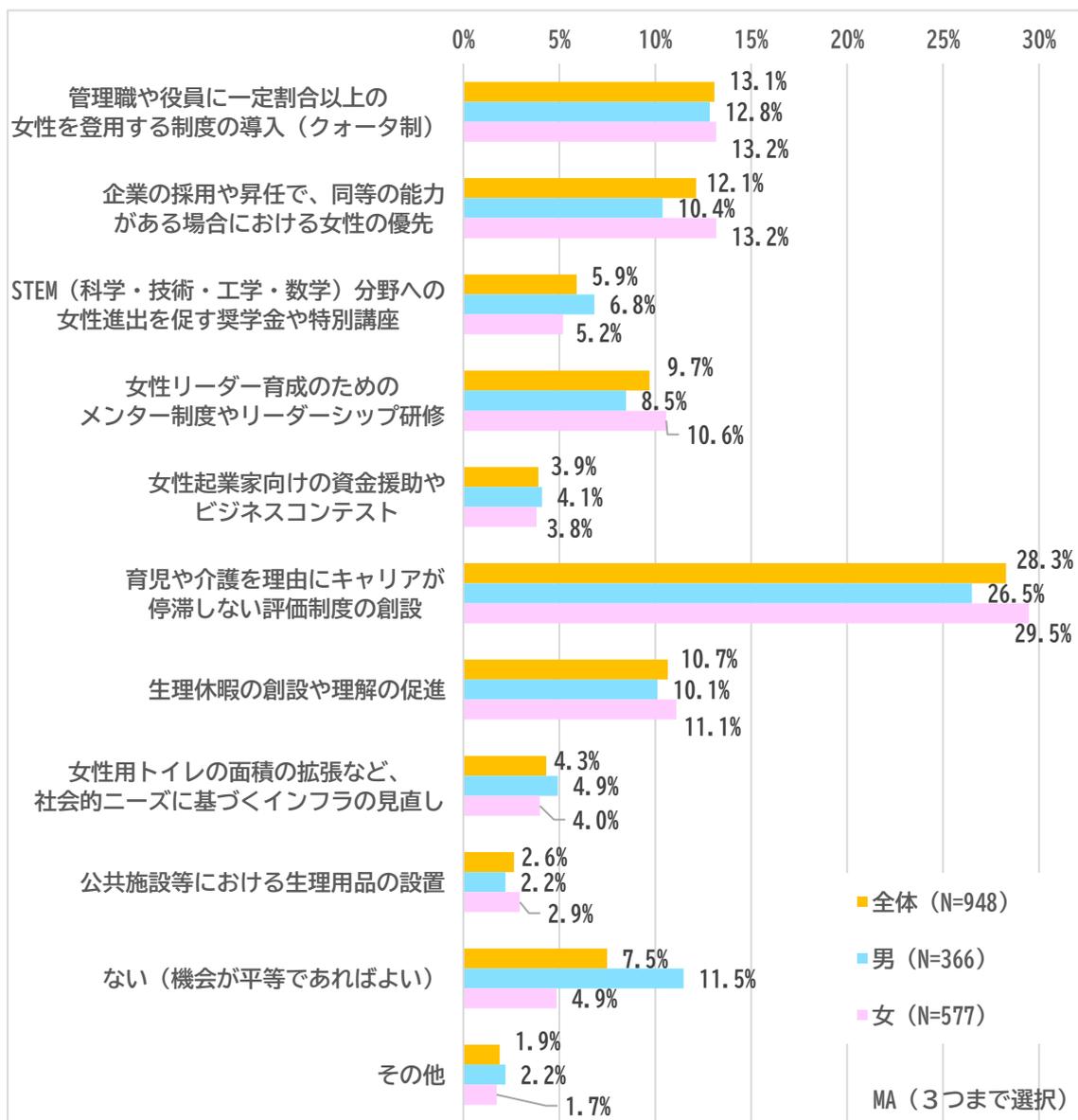
問37 男女の真の平等を実現するためには、単に同じ機会（機会の平等）を与えるだけでは不十分であり、個々の状況や背景に応じた支援や調整が必要だという考え方があります。具体的な取組として、あったらよいと思うものがあれば、次の中から選んでください。

（3つまで選択）

全体としては、「育児や介護を理由にキャリアが停滞しない評価制度の創設」が男女ともに最も多く、全体では、28.3%だった。

いずれの項目も、男女で傾向は非常に似ているが、「ない（機会が平等であればよい）」と答えた女性の割合は、男性の半分以下だった。

「公共施設等における生理用品の設置」については、必要と考えている人の割合が高くない（全体、男性、女性のいずれでも3%以下）ことがわかった。



「その他」のコメント

- ・ 育児しながらでも仕事が続けられるような環境整備。(男性・20代・未婚)
- ・ 産休に入りやすい職場環境(女性・20代・未婚)
- ・ メンタル不調への支援、カウンセリング、メンタルダウンからの復職の機会(女性・30代・未婚)
- ・ そもそも男女平等マインド設定があれば、自然に機会均等となる(女性・30代・既婚)
- ・ 男性の意識変化のための機会や研修など(女性・30代・既婚)
- ・ ちゃんと能力をみるべきだと思う。仕事しない。できないのに上司の前ではできる。やってる風にする男性管理職が多いのをわかるべき??(女性・40代・既婚)
- ・ 女性だけでなく、ライフイベントの際の男性が参加できるような制度を取り入れる。男性育休、子供の送り迎えの時短勤務など(女性・40代・既婚)
- ・ この間がある時点で変だと感じる(男性・40代・未婚)
- ・ 女性車両等、女性のみを優先していることが平等とは感じ得ない(男性・40代・既婚)
- ・ 働きたい人は働き、子育てしたい人は子育てに専念する。片働きでも子育てをし、老後も安心して暮らせる社会にしてほしい。どちらが働いてもいいが、子育て支援だけでなく、子育てしていた人が働いてない間の年金免除(女性・40代・既婚)
- ・ 女性のこと言っている時点で女性を差別している(男性・40代・既婚)
- ・ 男性の意識改革、教育をすべきは女性ではなく、男性の意識(特に昭和世代)が変わらないと平等にならないと思います。(女性・50代・既婚)
- ・ 機会は均等。女性の意思を優先配慮。(男性・50代・既婚)
- ・ 古い組織や男性側の意識を変えていくこと(女性・50代・既婚)
- ・ 女性の理系選択を阻まない教育(理系希望が定員を超えた場合に女性に文系転向を迫らない。小学校から女性に理系科目を推奨する。)(女性・60代・既婚)
- ・ ハード面の整備充実は肝要だと思うが、それ以上にソフト面(人格陶冶)を心掛ける。(男性・60代・離婚/死別)
- ・ 男女関係ない見方(男性・60代・既婚)
- ・ クォータ制の導入、昇任における女性の優先など、女性を特別に優遇することは、男性に対する性差別だと思うので、反対です。(男性・60代・離婚/死別)

◇配偶者等からの暴力防止に関する意識について

配偶者やパートナー等からの暴力（DV）とは、下記のようなことを指します。

【身体的DV】 殴る蹴る

【精神的DV】 怒鳴る、無視する

【経済的DV】 生活費を渡さない、貯金を勝手に使う

【社会的DV】 交友関係やスマホの制限

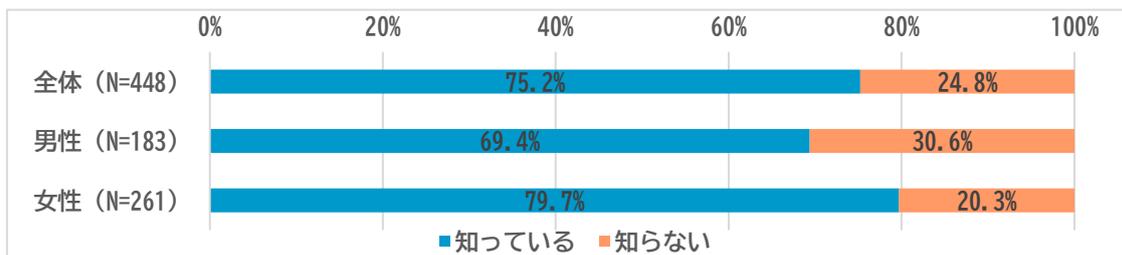
【性的DV】 わいせつな写真を撮る、性的行為の強要

【子どもを利用したDV】 子どもに悪口をふきこむ、子どもの前で暴力をふるう

問38 あなたは、配偶者やパートナー等からの暴力（DV）について、相談窓口※があることを知っていますか。

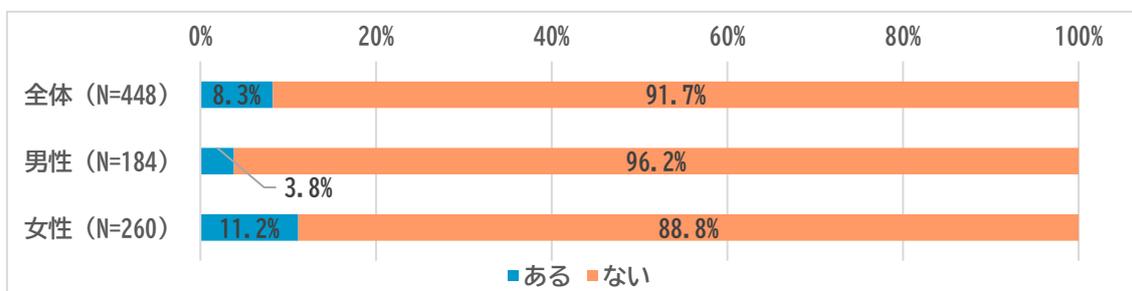
※相談窓口とは、福井市役所（女性支援室）、警察、福井県配偶者暴力被害者支援センター（ユウ・アイふくい、児童・女性相談所、健康福祉センター）、内閣府DV相談プラスなどを言います。

「知っている」と答えた人は75.2%であった。女性は男性より、知っている人の割合が約10ポイント高かった。



問39 あなたは、DVを受けたことがありますか。

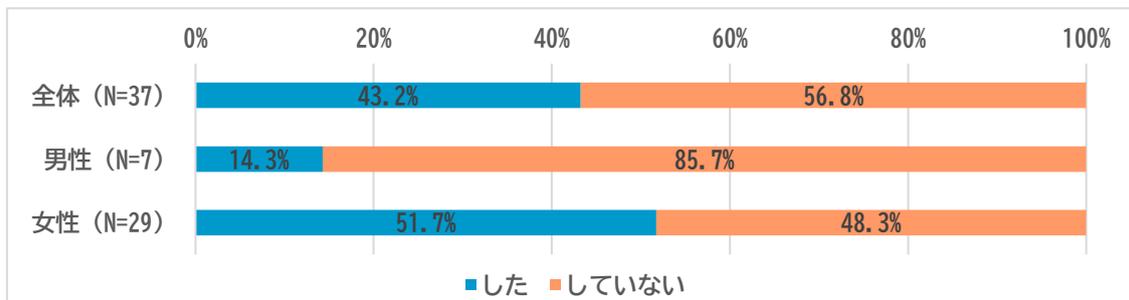
「ある」と答えたのは全体の8.3%であった。女性は男性よりDV被害経験の割合が高かった。



問40 DV被害について、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。

※問39で「ある」と答えた人のみに質問。

相談した人は、全体の43.2%であった。男性の約9割、女性の約半数が「相談していない」と答えた。



問41 DV被害について、どこ（誰）に打ち明けたり相談したりしましたか。（全て選択）

※問40で「した」と答えた人のみに質問。

相談先の多くが「友人・知人」、「家族や親戚」といった身の回りにいる人であった。

相談先	男性	女性	合計
家族や親戚	1	5	6
警察		1	1
内閣府DV相談プラス		1	1
福井県配偶者暴力被害者支援センター (ユウ・アイふくい、児童・女性相談所、健康福祉センター)		2	2
福井市役所		1	1
友人・知人	1	11	12
合計	2	21	23

問42 どこ（誰）にも相談しなかったのは、なぜですか。

（3つまで選択）

※問40で「していない」と答えた人のみに質問。

「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」という理由が多かった。

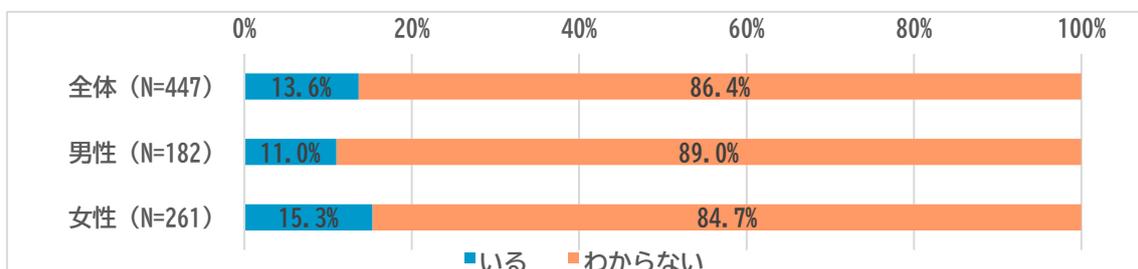
理由	男性	女性	合計
どこ（誰）に相談してよいのか分からなかったから		4	4
恥ずかしくて誰にも言えなかったから	1	2	3
相談しても無駄だと思ったから	3	5	8
相談するほどのことではないと思ったから	3	2	5
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	3	8	11
自分にも悪いところがあると思ったから	3	2	5
世間体が悪いと思ったから		3	3
自分の受けている行為がDVとは認識していなかったから		1	1
別れるつもりがなかったから		3	3
その他	1	1	2
合計	14	31	45

「その他」のコメント

- ・ レベルが低すぎる。限界がきたら別れる。（男性・50代・既婚）
- ・ 子供のため（女性・50代・離婚/死別）

問43 あなたの周りで、DVを受けた（受けている）人がいますか。

周囲に被害者がいると答えた人は、全体の13.6%であった。性別による傾向の顕著な差はみられなかった。



◇「困難な問題を抱える女性」に関する取組について

「困難な問題を抱える女性」とは、下記のような問題を抱えている女性を指します。

- ・ 配偶者やパートナー等から暴力（DV）を受けている
- ・ 性的な被害にあっている
- ・ 家や学校に居場所がない
- ・ 生活や家庭のことでとても悩んでいる

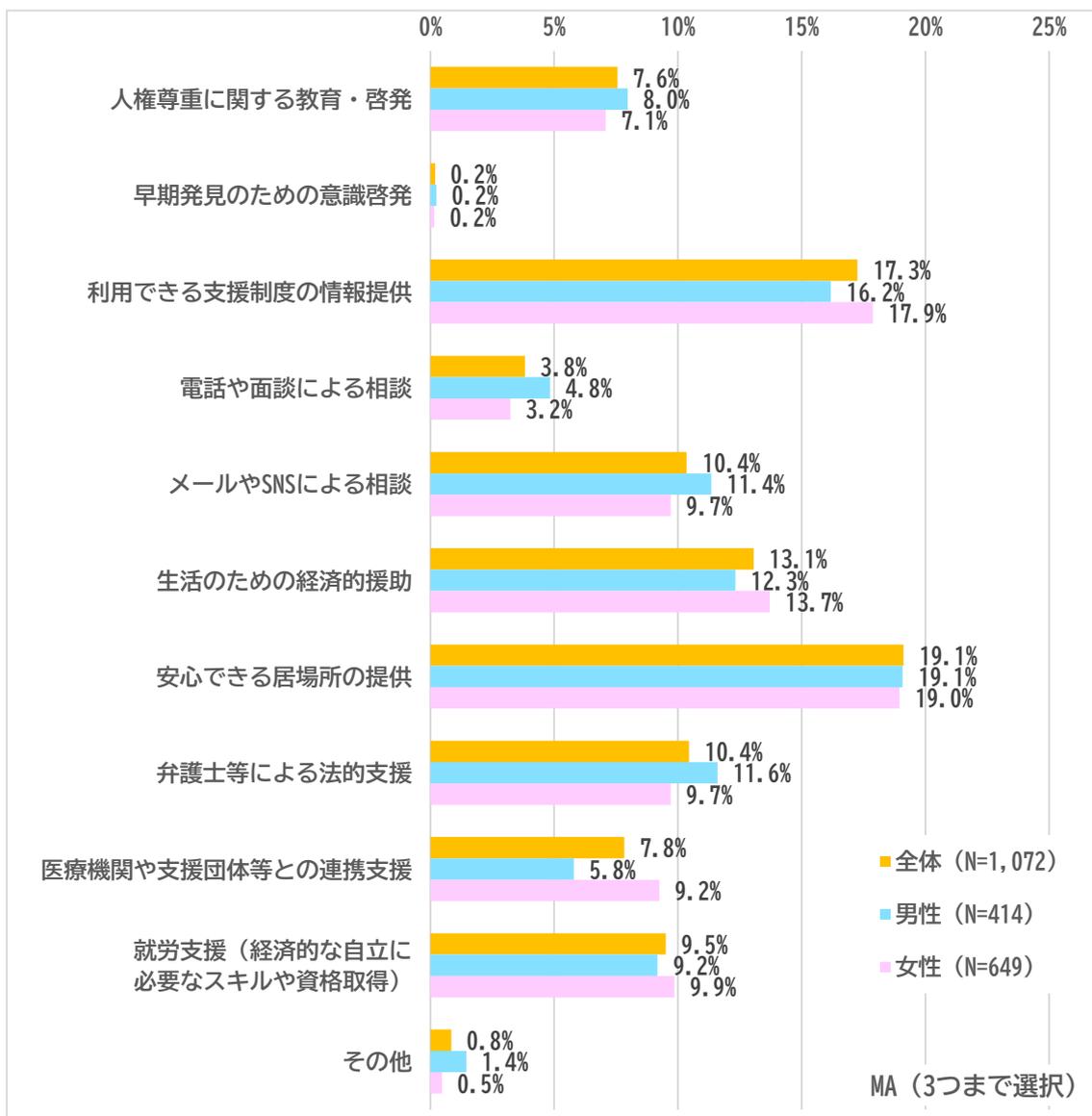
問44 「困難な問題を抱える女性」を減らす、または支援するために、どのような取組が効果的だと思いますか。（3つまで選択）

多いものから順に、「安心できる居場所の提供」が19.1%、「利用できる支援制度の情報提供」が17.3%、「生活のための経済的援助」が13.1%であった。

一方、「早期発見のための意識啓発」は0.2%と少なかった。

また、「電話や面談による相談」(3.8%)より「メールやSNSによる相談」(10.4%)の回答が多かった。

性別による傾向の顕著な差はみられなかった。



「その他」のコメント

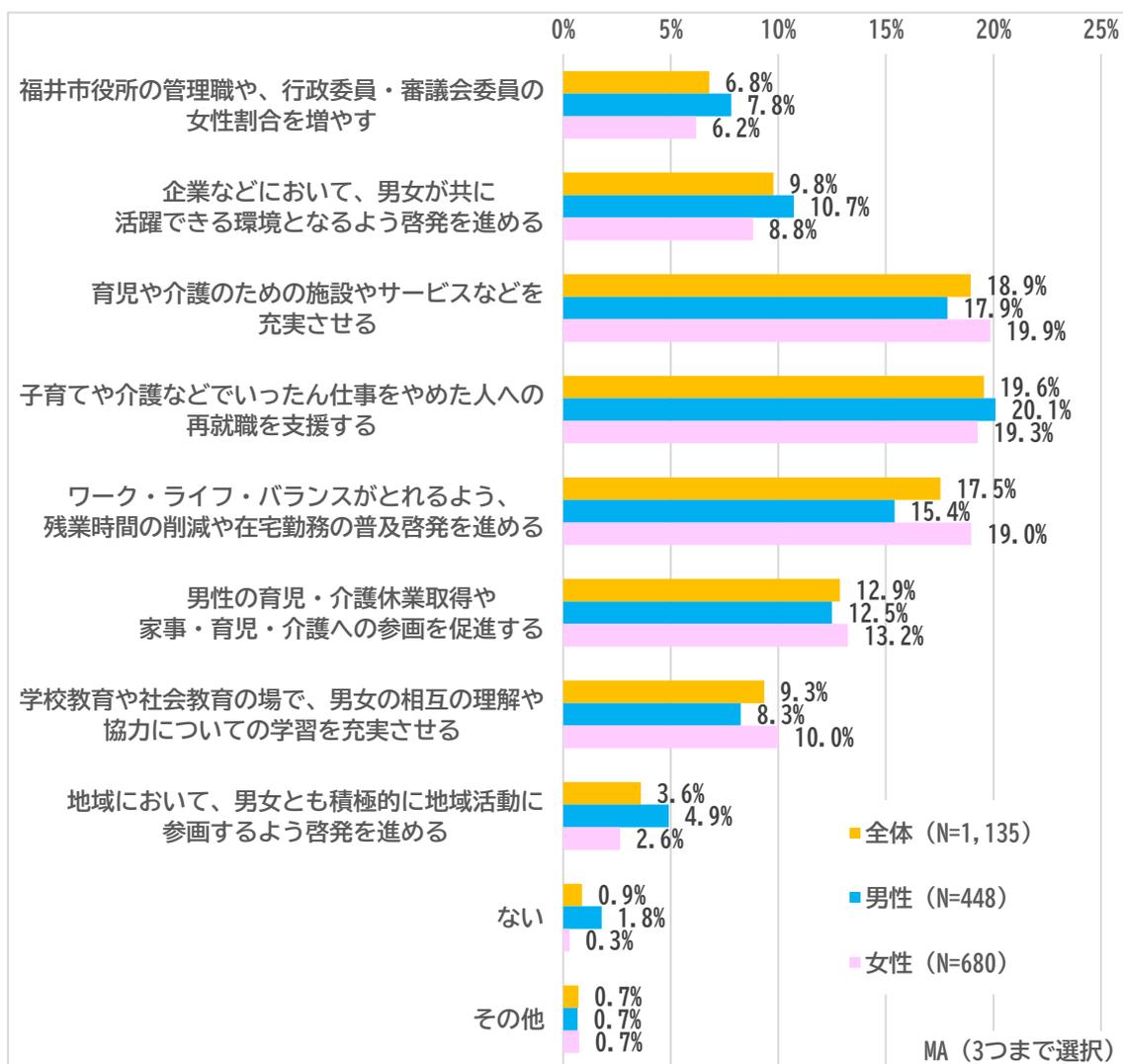
- ・ 当人たちに告知無しで家での様子を監視できる機関の設立(男性・20代・未婚)
- ・ 学校や職場に話せるようなカウンセラーの配置(女性・40代・既婚)
- ・ DVをされてる人はそれに気付いてない事が多く我慢する傾向がある。やっ
てる方は人前では良い顔するから分かってもらいづらいと思う。(女性・40
代・既婚)
- ・ 困難な問題を抱えるのは何も女性だけではないと思う(男性・40代・既婚)
- ・ わからない。側から見ていると完全にDVなのに、本人には自覚ないから(女
性・40代・既婚)
- ・ 情報弱者への情報提供。窓口担当者の知識アップ(相談が解決につながる
仕組)(男性・40代・既婚)
- ・ その人に合った対応(男性・50代・既婚)
- ・ 限界ならば別れる事が出来る環境を用意する事。(男性・50代・既婚)
- ・ 困難な問題を抱えるのは、女性に限らないと思います。(男性・60代・離婚/
死別)

◇男女共同参画推進のための取組について

問45 男女共同参画社会を推進していくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(3つまで選択)

全体では「子育てや介護などでいったん仕事をやめた人への再就職を支援する」、「育児や介護のための施設やサービスなどを充実させる」、「ワーク・ライフ・バランスがとれるよう、残業時間の削減や在宅勤務の普及啓発を進める」が順に多かった。

性別による傾向の顕著な差はみられなかった。



「その他」のコメント

- ・ 男女の賃金格差を無くす(女性・10代・未婚)
- ・ 男性の育休取得率向上を図るより看護休暇取得の促進や残業時間や休日出勤の削減を催す呼びかけをしたほうが良いと思います。(女性・30代・既婚)
- ・ メンタル不調の人の復職サポート、カウンセリングの場を増やす、など。福井は患者は多いのにそうした場やサポートが少ないと感じます。(女性・30代・未婚)

- ・ ちゃんと人を見るべき。本当にやってるフリ、できるフリの人が多い(女性・40代・既婚)
- ・ 男女の特性がある以上、男女の差ではなく個々の差という考え方を根付かせる土壌作りが先なのではと思う(女性・50代・離婚/死別)
- ・ 男女とも同じ評価と給与となるよう企業へ指導する。(男性・50代・既婚)
- ・ 女性の自治会長、首長の誕生(男性・60代・離婚/死別)
- ・ 若い世代の意見取り入れ(男性・60代・既婚)

◇男女共同参画に関する意見について

問46 男女共同参画についてご意見などがあれば記入してください。

10代男性

- ・ 昔は男尊女卑の考え方があり、女性に対する考え方が良いものではなかったと認識しています。しかし、現在は過剰な女性支援を当たり前かのように支持している人がいます。勿論全てとは言いませんが、女性の優遇によってフェミニストもどきが増えたのも事実です。今回の質問の中でもあった、女性の管理職の割合を増やすというもの。実際には多くの女性は高い地位につく事に抵抗感があり、あまりやりたくないと答えていたそうです。(未婚)

20代男性

- ・ 女性役員割合増加を推奨する制度は、性別による差を広げると考えている。性別ではなく、能力による選定を徹底すべきだと思う。(未婚)
- ・ 出産だけは男性には変わることでできないものなので、産休育休でキャリアや昇進が遅れてしまわないような仕組みがあると良いのかなと思いました。(パートナーと同居)
- ・ 男性や女性の育休は一種の外部経験(異動の一種)として、その間も給与が支払われる制度の創設や、それがキャリアにプラスになる人事評価が必須だと思います。(未婚)
- ・ 女性であることが社会進出の妨げになってはならないと思う。そのため、女性の様々な境遇を改善していく施策をしていくべきだが、行き過ぎた女性優遇をし、男性が生きづらい世の中にしてはならない。(未婚)
- ・ 女性だからと様々な制度を適応するのではなく、必要だと思う人に適した制度を紹介できるといいと考えます(未婚)
- ・ 私の職場では、男性は長時間労働をして当たり前という風潮があり、疑問を感じています。
- ・ 男女共同参画の差は、出産や育児によって女性は仕事ができなくなることから生じてしまうと思われるが、今では子育ては夫婦で協力する価値観も若い世代に広がっている。そして、やる気のある人は子育てしながら仕事や研究をしていて、自分もそういう人を何人か知っている。女性が活躍できるかは、単純にやる気の有無だと思っている。それは管理職を忌避する男性のやる気のなさとも根は共通していると思われる。男女共同参画の達成度と女性の活躍の不十分さは相関していないと考える。(未婚)

20代女性

- ・ 男性や女性の枠に囚われすぎるのも良くないと思います。上に女性リーダーを何人配置すると、能力的に劣っているが、女性を配置しなければいけないからとリーダーになる方が出てきてしまうと思います。個々の能力をみて男性でも女性でも変わりなく、上の立場になる人は選ぶべきだと思う。差別と区別が混ざらないように頑張ってください。(既婚)

- ・ 男性の育児休業へのイメージがまだ良くないイメージ。わたしの勤め先では取れている印象だが、配偶者の会社ではまず有り得ないというような返答があった。(既婚)

30代男性

- ・ 福井では出産や育児により女性のキャリア形成や昇進機会が制限されている。出産後は約5割が離職または非正規化し所得減少が長期化する傾向にある。男性育休制度や啓発活動は進んでいるものの収入減の不安が依然として男女共同参画の最大の壁だ。例として世帯年収500万円で妻が3年間育児休業を取ると300万円減収。国や自治体が50%を補助すれば150万円が補填される計算となる。福井県の年間出生数約4,000人で試算すれば、必要財源は年間20億円規模。子どもが小学校に入学するまでの期間限定で所得補填給付金を創設すれば経済的不安を減らし男女ともに働き続けられる環境が整い地域の人口減少対策にも寄与すると考える。(既婚)
- ・ 男女の真の平等は、不可能 家庭や職場それぞれの環境下での男女それぞれ納得できる公平性を求めるべき(パートナーと同居)
- ・ 県内上場大手企業に勤めているが、経営層に何年も代わり映えがなく古い人間ばかりで男女共同参画なんぞ考えてないと感じる。(既婚)
- ・ 男性が優遇されている点、女性が優遇されている点は多々あると思いますが、近年は女性の方が強いように感じます。(既婚)

30代女性

- ・ 男女平等が当たり前求められる現在においてどれくらいの組織が人事を行う際に性別を加味しているのでしょうか。女性管理職の割合を増やす取組は果たして本当に男女共同参画に繋がるのでしょうか。本当はなりたくないけど上司から数値が達成できないと説得されて渋々管理職なったという話も聞くと、私は能力不足のまま管理職になった方に仕事で振り回されたことが何度かあります。そろそろ性別とかではなく能力に合った(男性/女性が向いている仕事があってもいい。生産性で評価されるべき)、また、自分の生活形態や意志意欲に合わせた働き方を選択できるかという考え方にシフトした方がいいのではないかなと思います。(既婚)
- ・ 女性だから男性だからという考えが変だと思う。女性の管理職登用率を上げるという目標も、わざわざ必要なのかと感じる。(既婚)
- ・ 男性はこう、女性はこう、という固定概念がなくなれば、そもそもこのような話題はなくなると思う(既婚)
- ・ 男女問わず、得手不得手はあるので、平等というよりも公平性の方が大切だと思われる。(未婚)
- ・ この様なアンケートを実施してくださりありがとうございます。県外から移住してきた者ですが、福井県の女性は思いやりがあり、面倒見が良い方が多く、素晴らしいと思います。しかし仕事やキャリアに関しての意識が薄い様に感じます。女性のキャリアに関する啓発やセミナーがもう少しあるといいなと思いました。(未婚)
- ・ 福井の女性自身が就労に対してあまり積極的でない人が多い。主に賃金の男女差が当たり前存在しており、それを受け入れてしまうため収入の多い男性と結婚して子を儲ければ安泰だという考えが蔓延しすぎていて就労に積極的でないと考える。また、早期に結婚して子をもうけた後にはキャリアを積んでいないため離縁等でシングルマザーの貧困問題に直結して子供が同じような道を進みかねない。今後の人口減少とともに市民一人一人の価値向上を図るには女性の力が不可欠。就労で得られる女性自身の価値を上げることが重要である

が、それは企業のほとんどが男性であるので行政と企業とで女性のキャリア構築を考えてほしい。(既婚)

- ・ 私の勤めている会社は、いまだに女性がお茶出しをさせられています。来客対応時ならまだしも、社内の男性だけが参加する会議のとき、幹部たちが部屋で談笑するときなどにお茶出しのために呼びつけられ、仕事を中断しています。会社のトップ、幹部、長く勤めている社員(男女とも)は女性がお茶出しをするのが当たり前だという固定観念が強く、内部ではどうにもできません。お茶出しのために女性社員の仕事を中断させるのは悪質だという認識をしてもらいたいので、外部(市)のほうから啓発活動や聞き取り調査、アンケートを会社向けに実施してもらいたいです。(未婚)
- ・ 男女の生物学的な違いはあると思うので、男女平等を唱えすぎて逆ハラスメント、逆不平等になることを恐れている。どこに税金を使うのか、慎重な判断に期待している。(既婚)
- ・ どんなに法律や制度を整えても意識を変えないと、変化は結果として見えてこないと思うので子供の頃から根付くようにしていくのが大事なのだと思います。お互いが協力しあわないと、片方に負担がかかり不満がたまっていくと思うので、子供のためにも話合っそれぞれに家庭にあった子育ての仕方を構築していくことが重要だと思っています。仕事では責任が伴うので、時短勤務や定時帰社が難しいですが、子供との時間を大切にできるような日常を送れるように心がけたいです。(既婚)
- ・ 福井は子育てがしやすい地域だと思います。しかし、実家や義実家の支援がない女性がフルタイムで働くにはパートナーの協力が不可欠です。女性が時短勤務をすることは推奨するのにもかかわらず、男性が時短勤務や育児休暇を取得することにはまだまだ壁があると感じます。また、給与は都市部に比べてかなり安く特に女性が自立して生活するには少なすぎると思います。物価高、社会保険料の高騰などもあり真面目に働いていても生活は厳しいです。男女共ですが給与水準を上げなければ都市部への若者の流出は防ぐことができないと思います。(既婚)

40代男性

- ・ 男性と女性というのは体質上違うから、平等というのは扱い上、ムリだと。なんで、平等を訴えるのか常に不思議でした。性別差を解消するのはムリです。どこの世界が平等で成功していますか？平等ということを強調しすぎてないですか？平等にしようと私たちがムリをし、ムダが発生しています。お互いの性別は割り切りましょう。それが正しい選択です。(既婚)
- ・ 参画を促すのはいいが、女性という理由で優遇するのは平等ではなく、差別である。同じ土俵に立った時に性別で判断するのではなく能力、資質で判断すべきだと思う。(既婚)
- ・ 男女平等？一部に目を向けると女性が負担を強いられているというが、本当にそうか大多数の女性は満たされているのではないか？一部の弱者は男女問わずに存在する。どうせなら、そこまで考慮した改革を切望します(既婚)
- ・ 該当する人達からの意見を一回限りでは無く定期的に聞く。上でもありましたが、SNS(市のHP等)で広い間口を作り意見を拾いやすくする。その際にはアカウント作成はマイナンバーと紐付けし1人1アカウント等対策も確実にを行う。(既婚)
- ・ 企業が色々な努力は必要だと思われませんが最終的には家族やパートナーの理解が一番重要だと思われます。(既婚)
- ・ 男、女どちらでもいいので、結婚、子育て、老後に備える収入が得られる環境、職場が増えるといいと思う。自分はここまでの給与しかないと思うと、ここまでという気持ちになると思う。つまり、これ以上何かをしたいと思わない(未婚)

- ・ ジェンダーレスと良く聞きますがあまり関わりたくありません。普段は聞き流してます。男性側、女性側の意見や相談も受けたりしていますが、どう考えても〇〇ハラとか女性側が多様するので内心はアホかって感じます そんな事に感じるのは個人差があるのに基準を設けようとする行政も変だと思えます…正直なところモラハラやパワハラは散々受けてきて今の立場を掴み取った自負があるので、もっと頑張って周りを納得させろってのが実直な意見です。(未婚)
- ・ 上の一定数女性管理職を登用するなど、基準となる目標数値を決め、それを目指す事は必要かと思っている。女性の社会進出、管理職配置において、目標の数字を達成する事が目的となり、能力主義でない。能力がない女性でも、管理職を増やさねばならないと組織の意識が働き、結果、組織全体のパフォーマンスが下がる時がある。機会が均等で能力により女性幹部登用は賛成だが、低い能力でも数字のために昇進させる行為こそ、女性を蔑視してると感じる(既婚)
- ・ 男女平等といっても、男性、女性では体力面など、様々な違いがある。そのため、差別ではなく、区別だという意識をする必要があると思う。例えば、力仕事は男が得意など。なので、お互いに得意、不得意を補って、相手への尊敬の念を持ち、助け合う気持ちを持つことが大切だと思う。(既婚)
- ・ 子供のいる女性は勤務形態を柔軟に選択できるようにする。時短勤務でも、全額支給。(既婚)

40代女性

- ・ 男性の意識が低いと思います。(既婚)
- ・ どの会社も人材不足で、男女共同参画については表向きには取り組んでいるが、そこまでできてない部分がある。AI など技術を取り入れて改善していく方法を紹介していくなどアプローチ方法を増やしてほしいと思う。(既婚)
- ・ 福井の企業体質が古い。経済界もテレビに映れば男性ばかりで時代遅れ。その影響が家庭にも及ぶ。女性管理職の率を公表・企業表彰したり、女性活躍推進のスコアリング、サーティファケーションして公表するくらいしないと、変わっていかないと思う。(未婚)
- ・ 夫と死別し、一人で三人の子供を育てています。福井は子供の進学に関する経済支援だけでなく、子育て中の親が多数派であるが故の生きやすさはあると思います。大変ですが、職場の理解があり頑張っています。(離婚/死別)
- ・ 無理矢理割合決めて女性管理職作るのはやめた方がよい。男女関係なく能力がある人が管理職なのが1番良い。家庭の事情がゆるせば、だけど。(既婚)
- ・ きちんとやろうとしてるなら、真剣に考えるべき。これをやる人達が平等に人を見て、きちんと考え、見極めてくれる人材なら福井は良くなると思う。(既婚)
- ・ 女性の社会進出を進めるには、女性が変わるのではなく、男性が変わる必要があるのだと思っています。家庭での役割分担や長時間労働が美德という価値観など、、、女性の課題としないで欲しいです。男性に変化を求めることは、結果的に男性の生き方に多様性をもたらすことにもつながるのではと思います。(既婚)
- ・ 核家族。子どもの長期休み(特に学童が使えなくなる高学年)、子どもが病気の時、家に子だけで置いておくのが不安。そのため末子が小学校を卒業する位まではパートで、と思っています。しかしその頃には自分は40台後半。正社員としての就職はかなり厳しい。出産後、育児に専念したく、正社員からパートに。核家族は現状では、育児をとるなら、正社員はムリ。そして将来の経済的不安が強い。(既婚)

- ・ 女性への情報提供や制度だけでなく男性が協力出来るような制度づくりや意識変革の講座、WS を開催するのがよいと思う。市、単位ではなく地域単位で開催し、申し込みしやすく、参加しやすい体制が必要(既婚)
- ・ 女性が活躍することに対する周囲の理解がないと、いくら環境を整備しても意味がないのでは。一定の年齢以上の男性で、女性活躍に対する理解が薄いと感じる。(既婚)
- ・ 女性だけでなく男性の意識改革も必要。女性に改革を求めるだけでは社会は変わらない。平等は難しいと思うが、男性が女性に理解を示せるように啓発活動も必要。(既婚)
- ・ 賃金が不平等な状態のまま男女平等は絶対にあり得ないと思います。特に福井は女性の給料が低く、1人で生計を立てられる人はほとんどいません。そのことを分かっている男性はどのくらいいるのか…。女性への啓発活動ではなく、男性への啓発の方が必要かと思います。(既婚)
- ・ これだけ男女共同参画が叫ばれているにも関わらず、いまだに家事全般は女性の仕事という家庭がまだまだあると聞きます。今の若い世代には男女共同参画の考え方が浸透してきているように思いますが、管理職世代や年配の方々の意識も同時に変えていかないと、世代間のギャップが広がるばかりだと思います。(既婚)

50代男性

- ・ 数字だけを求めても、場合によっては、女性を苦しめる結果になる。気持ちを優先する体制整備を。(既婚)
- ・ 困難な問題を抱える女性への支援は広く注目されていますが、家庭の事情などにより困難を抱える男性も少なからず存在すると思います。男女を問わず支援が行き届くよう、幅広い視点での取組を進めていただきたいです。(既婚)
- ・ 男女共同参画は、性別による差別や制限をなくし、同じ機会を与えることが本来の目的であるべきです。しかし近年は、結果の平等を重視しすぎ、性別比を無理に揃える施策が見られます。これは不公平感や反発を招きかねません。重要なのは機会の平等が担保されることです。性別で門戸が閉ざされなければ、結果は能力や努力に委ねられるべきです。(既婚)
- ・ ◆設問 35 補足:昨年、池田町の女性職員への結婚退職勧奨が明らかになったとき、町自身では事態を收拾できませんでした。21世紀もとっくに20年を過ぎているのにこのザマであれば、既に状況は破滅的です。福井市は多少マシかと思いますが、県内全体で見れば楽観視できないでしょう。◆その他 1:福井市に限りませんが、自治体の審議会や重要な会議において中高年男性がメンバーの大半を占めており、テレビで見ても異様です。◆その他 2:福井に限らず、義務教育で包括的性教育が阻止されていることに危機感を覚えます。女性の体は女性自身のものであるのに、妊娠のコントロールから目を背けさせつつ少子化解消を目指すなどふざけています。(未婚)
- ・ 女性の考え方も多様なので、決めつけや一義的な極端な取組施策とならないような配慮が必要。(既婚)
- ・ 社会が男女平等であれば男性も家事育児に参加できる時間ができると思う(既婚)
- ・ 共に不公平感があると思いますので、解消する事に向けて、ご対応のほどよろしく願い致します。(既婚)
- ・ 世代間で考え方が違うことが前提で物事を考える必要がある。高齢者は既成概念が一般的に強いので考え方は変わりにくいから若者中心に物事を考えた方が満足感を持つ人が増えていくと思います。(既婚)
- ・ そこまで共同参画いうなら役所は24時間365日開けるべき。今多様な職種で昼も平日も

行けない人等はいつ役所利用出来るの？そんだけ余計な人間いるならシフト組んでフルで開けとけなはれ。それをする事で人材確保や共同参画にゆくゆく繋がっていくんじゃないの？(既婚)

50代女性

- ・ ポジティブ・アクションは逆差別だと思う。私は理系で、能力さえあれば、男女の差別がないことはよくわかっているから。(既婚)
- ・ 男女の差異については変えようがないので特性を活かす配置を考えたり補いあっているという実感が得られる体験を早期の教育に取り組むなど違うことを理解するプログラムに目を向ける方がいいと思う。平等なんてないと思うので。(離婚/死別)
- ・ 男女関係なく、人の能力、体力等は全く違うので、平等とばかり言うのは少し違う気がします。お互いを補える、助けあえる、認めあえる社会を目指しては！(離婚/死別)
- ・ 共同参画という言葉が難しい。もっとイメージしやすい言葉を使えば、もっと身近でみんな考えてくれると思う(既婚)
- ・ 女性優先というよりも、男女共に個々人の希望を踏まえた平等な選択肢があるとよい。(既婚)
- ・ 福井は男性優位に見えている。家庭、職場などは、実際は雑用などを女性がひきうけ縁の下で支えている。保守的な考えを変えないと変わる事は出来ないと思う。(未婚)
- ・ 福井の風土や昔からの考え方が今は時代遅れであり、今、これからは男女共に家事、育児、地域活動などを平等に行うという考え方を子供の頃から教育していく必要があると思います。3世代同居が良い面もありますが、逆に男女平等に家事を担当するという考え方の弊害になっているかもしれないと思っています。女性(祖母、母、叔母、娘)が居ると、男性は特段家事をしなくても生活できる。そのように育った男性が結婚して、親と同居しないで核家族で生活する場合、家事の協力が得られなく、女性は大変な事が多いように感じます。(既婚)
- ・ 今でも女性側が何を求めているか男性側は理解できていない。福井は共働きが多いのに、女性ばかりが家事をしている。男性は独身時代に家事をしていても結婚したらなくなるのは何故か。(既婚)
- ・ 妻の方もフルタイムで夫と同等に働こうと思うと、早く家を出る必要があります。しかし、福井市立中学校の中には、7:50 になるまで玄関を絶対に開けてくれない学校があります。子どもをおいて家を出たくないの、葛藤しています。他県の自治体では、校務員さん対応で7:00 開門にしているところもあります。共働き率の高い福井も、このようなサポートをいただけてませんか？ 行政から学校側に提案していただくと助かります。よろしく願いいたします。(既婚)
- ・ 福井市でもジェーン・スーさんの男女共同参画講演会を開催してほしい。(既婚)
- ・ 子供の保育園や病児保育のお迎えの時間が早すぎて、結局、仕事を早退しないといけないことが多い。必ずしも、休みが土曜日や日曜日でないことがあるのに、保育園や病児保育は休みで親などに預けないといけない。働きにくい。全然、考えられていない。もっと働きやすい環境にしてほしい。特にサービス業の方は、大変だと思う。遅く迄見てもらえない。(既婚)
- ・ 男女問わず、志のある人を妨げることのない社会になると良い。現時点では(自分も含め)志を持つ女性は少ないように思う。女性自身の意識変革が必要だと感じる。小さい頃からの家庭教育、学校教育、社会教育など、教育面の充実が不可欠だと思う。(既婚)

60代男性

- ・ どんな職場でも働く人々は何か特技や長所を持っていると思います。管理職は男女の別で

なくその適材適所を見抜けるよう常にその見識を上げるべく努力、勉強を続けるべきと思います。管理職の座にあぐらをかき、自分の都合を通す人が働く人の能力や意欲を削いでいると思います。形だけの平等や男女の同権を言っても余り意味がないと思います。一人一人が尊重される社会であるべきと思います。(未婚)

- ・ 男女共同参画は障害者雇用に似ていると思う。障害者を過剰に優遇することによって、健常者の居場所がなくなることだってある。同じようなことが男女共同参画でもあり得ないとは言えない。基本は男女問わず適材適所でよいのでは？偏見かもしれないが、男性は外で働いても家庭を顧みることには馴れているが、女性は家庭を顧みることにはまだ馴れていない気がする。(既婚)
- ・ 働き方改革と無駄な仕事をやめる決断が必要である。勤務時間を減らすことです。(既婚)
- ・ 単なる平等ではなく、生物学的な性差に基づいてよく考えるべき。小さな子供は、父親より母親と一緒にの方が精神的に安定している気がする、など。(既婚)
- ・ 性別にこだわらない環境の整備が必要 女性ももっと自信を持って欲しい。(既婚)
- ・ 男女共同参画は、60代の自分からすれば十分進んでいると感じる。ただ以前あったが、女性管理職を何パーセントとか男性の育児休業取得率とかあきらかに無茶苦茶な数値目標は不要、数値ばかりに目がいていて、現場の状況を考えていない。(既婚)
- ・ 核家族化より3世代同居を推進すべき(既婚)
- ・ 組織において無理矢理女性管理職のシェアを設定するのは無理ゲーと思われる。当の該当女性にその気がない場合など 本人の特性並びに気概を尊重確認が必要と考える。(既婚)
- ・ 啓発より実行(既婚)
- ・ 自分は会社員ですが、まだ女性の管理職の数は少ないと感じます。男性と同じ責任とプレッシャーを受けるだけの素質を持った人が、全体的にまだ少ないのだらうと思います。その部分のスキルアップを目指す研修会を拡充したらいいと思います。(既婚)
- ・ 権利だけでなく義務も平等であること。(既婚)
- ・ 心身において性差はいかようにしても存在する。行き過ぎた平等思想はかえって逆差別を生む恐れがあると考え。あくまで個の存在に対してよく生きる、働く、暮らすための職業斡旋や経済支援が望ましいと考える。(既婚)

60代女性

- ・ 進学で東京、外資系勤務して最近 U ターンしました。驚いたのは福井には昔ながらの男尊女卑文化が根強く残っていることでした。職場でも地域でも年配男性からのパワハラ、アカハラの言動があり、聞くとそれが当たり前のようにとてもショックでした。多様性がなく女性は生きづらい所だと思いました。文化は暮らしの環境なので、DV や貧困のように同じ環境にいと次世代にも残っていくと思います。なんとか断ち切って欲しいと思います。(離婚/死別)
- ・ 福井では、まだまだ男性の家事や育児への参加意識が低い。若者だけでなく、全世代への啓発が必須。(既婚)
- ・ 男女共に多様な選択肢が可能でありよう、制度と意識を解放できたらよい。どちらが良い悪いではなく、自由な選択肢。女性が女性の足を引っ張る現象も見受けるので、その点にも注意が必要だと思います。(離婚/死別)
- ・ 女性の立場向上を優先するよりも先に、男性の女性への先入観、考え方などの教育活動が大事ではないかと思います。それが充実すれば自動的に女性への見方が変わったり、能力のある方がリーダーになる事に違和感が少なくなるのではないかと考えます。関係ないです

が、出産率低下防止もまずは若い方(小学生、中学生、高校生など含む)に結婚は楽しいもの、子供を産み育てるのは辛い事もあるが嬉しい楽しい事もある、という教育活動の方が助成金を渡すよりよほど本人や社会の喜びになるような気がします。(既婚)

- ・ テレビで地方の若い女性が都会になぜ行くのかという番組を見ていて行動力ある事に感心した。自分の 20 代は思っただけでも行動に移せなかった。いろいろ言われたが我慢するのが当たり前だと思っていた。周りの顔色を見て、普通にならざる得ない環境では、他人軸で物事を見るだけだったが、これからの人には、自分軸で自分のやりたいことをのびのびと出来る環境を整えて欲しいと思う。まだまだ封建的。福井も変わらなければもっと人口が減り、若い女性が県外に出て行き出生率が下がると思う。結婚にお金をかけすぎだと思ふ。見栄体裁プライド家に縛られてる限り女性の自由な選択の幅はせばめられているとおもう。(離婚/死別)
- ・ お茶は女性が入れるもの、会計係は女性など、全体の意識がまだまだ変わらない(既婚)
- ・ 一旦、結婚出産で退職すると、家事の負担や育児の為に再就職はパートやアルバイトに限定される事が多い。家事育児をしながらも正社員雇用される環境整備が必要。(未婚)
- ・ 教育などで小さい時から意識を持つようにする(既婚)
- ・ あたりまえの世の中にするには、昭和の親父たちの脳内改革から始めないと、その子どもも同じことを繰り返すというのをもう何十年も見てきた。親父たちの教育が一番！(離婚/死別)
- ・ 市民意識アンケート 2,000 人の結果を踏まえて男女共同参画基本計画改訂の良い案を是非実現させて下さい。宜しくお願いします。(離婚/死別)
- ・ 単に男性の職業に女性が進出するのではなく、互いの違いを理解し合った上での適材適所の職業を模索していくべきです。お互いの良さを尊重し合わなければ、より良い職場にならないと思う。(既婚)
- ・ 福井は働く女性の比率が高いが、雇用統計を見ると、特に零細企業では女性の昇給がほとんどない。一方で親世代との同居率が高い。福井の女性は昇給のない安い給料で働きながら、同居して家のこともしているように見える。女性が「便利なだけの労働力」になっている状況を変えていかないと男女共同参画は進まないし、若い女性の定着もないのではと思う。(既婚)
- ・ 対等とはとても難しいことです。時代によって当たり前も変わります。皆んな頑張っていますよね。自分と周りに思いやりをもって過ごしたいです(既婚)

令和7年度男女共同参画に関する福井市民意識アンケート調査報告書

令和8年2月発行

福井市 総務部 未来づくり推進局 女性活躍促進課